

第五十九回帝國議會
衆議院

抵當證券法案外九件委員會會議錄(速記)第六回

會 議

昭和六年二月二十七日(金曜日)午後一時二十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 荒川 五郎君

理事 小峰 滿男君

理事 篠原 陸朗君

理事 勝田 永吉君

理事 大崎 清作君

理事 板谷 順助君

小村 俊一君

關口 志行君

瀬川 嘉助君

名川 侃市君

中田 駿郎君

出席政府委員左ノ如シ

北海道廳長官 池田 秀雄君

大藏政務次官 小川 郷太郎君

大藏省銀行局長 大久保 偵次君

司法省民事局長 長 島 毅君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

議員 植原 悅二郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

第五類第十二號 抵當證券法案(政府提出) 第六回 昭和六年二月二十七日

抵當證券法案(政府提出)

不動產登記法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟法中改正法律案(政府提出)

競賣法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)

日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)

農工銀行法中改正法律案(政府提出)

北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)

府提出)

國稅徵收法中改正法律案(政府提出)

貯蓄銀行法中改正法律案(政府提出)

○荒川委員長 是ヨリ抵當證券法案外十

件ノ委員會ヲ續行致シマス、本日ハ北

海道拓殖銀行法改正法案ニ付テノ質疑

ノ殘ガアリマスカラ、ソレヲ終リマシ

テ、成ベク貯蓄銀行法並ニ無盡業法ノ

質疑ダケハ進行シタイト思ヒマス

○板谷委員 私ハ北海道拓殖銀行法改

正案ニ付キマシテ、先達本會議ニ於キ

マシテ、政府ノ所見ヲ質シマシタガ、

不満足デアリマスルノデ、此場合更ニ

質問致シタイト思ヒマス、勿論北海道

拓殖銀行法ノ改正ノ目的ハ、抵當證券法

ガ實施サレタ場合ニ於キマシテ、是ノ

取扱ヲスルト云フノガ骨子トナッテ居

リマスケレドモ、先般來大藏大臣初メ

政府委員ノ說明ニ依リマシテモ、此機

會ニ於テ北海道拓殖銀行ノ權能ヲ十分

ニ發揮サセルト云フ御話ガアリマシタ

ノデ、之ニ關聯シテ御伺スルノデアリ

マスガ、現在北海道ニ於ケル所ノ不動

產ノ推定價格ハ、約五十億圓トシテアル、

然ルニ拓殖地ニ於ケル唯一ノ不動產金

融機關デアル所ノ北海道拓殖銀行ハ、現

在ノ資本金ガ先般來申上ゲマシタヤウ

ニ、僅ニ二千二百五十萬圓デアッテ、而シテ

債券ノ發行額ハ現在ニ於テ一億二百七

十五萬圓ニ達シテ、殆ド行詰リヲ生ジ

テ居ルノデアリマス、所ガ此債券ノ發

行額ヲ此度ノ改正ニ依テ十倍ヲ十五倍

ニスルニ付テハ、稍々改正ヲサレタ點

モアリマスケレドモ、今申上ゲマスヤ

ウニ、此抵當證券法ガ實施サレタ曉ニ

於キマシテハ、興業銀行ガ四億千五百

萬圓、農工ガ七億三千百萬圓ノ債券發

付託議案

抵當證券法案(政府提出)

不動產登記法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟法中改正法律案(政府提出)

競賣法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)

日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)

農工銀行法中改正法律案(政府提出)

北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)

國稅徵收法中改正法律案(政府提出)

貯蓄銀行法中改正法律案(政府提出)

無盡業法中改正法律案(政府提出)

行能力ヲ持ッテ居ルニ拘ラズ、北海道拓

殖銀行トシテハ、僅ニアト八千四百萬

圓ヨリナイノデアリマス、政府ハ北海

道ニ於テ之ガ實施サレ、及ビ北海道ノ

拓殖地トシテノ不動產ノ金融機關トシ

テ、是デ御満足ニナッテ居ルノデアルカ

ドウカラ、先ヅ第一ニ伺ヒタイ

○小川政府委員 此間本會議デモ板谷

サント私トノ間デ問答ヲ致シマシタ

ガ、板谷サンノ御意見カラシテモ、北

海道拓殖銀行ノ債券發行額ヲ十五倍ニ

シテハドウカト云フヤウナ、御意見的

ノ御質問デアリマシタ、丁度政府モ同

ジヤウナ意見ヲ有ッテ居リマシテ、十五

倍ニスルト云フヤウニ提案シテ居ル次

第デアリマス、現狀カラ申シマシテ相

當ノ債券發行ノ擴張デアルト考ヘル次

第デアリマス、寧ロ北海道ノ金融ニ付

テ同情ヲシタ立法ダト考ヘテ居リマス

○板谷委員 政府ハ現在ノ北海道拓殖

銀行法ノ改正ニ依ッテ、満足シテ居ルヤ

ウナ御話デアアルガ、私ハ北海道ノ現在

ノ情勢カラ見マスルト、唯一ノ不動產

仕事ヲシテ居ルカト檢討シテ見ルト、前記ノ拓殖銀行ノ計算ニ依リマス、年賦貸付が一億千七百餘萬圓アリマスガ、其半面ニ於テ手形ノ割引ト云フモノハ五千四百萬圓、殆ド三分ノ一ト云フモノハ普通銀行ノ仕事ヲシテ居ルヤウナ状態デアル、是ハ何處ニ原因ガアルカト申スト、現在北海道ノ農村ニ對シテ貸付ケタル金額ガ、思フヤウナ回收ガ出來ナイ、從ツテ普通銀行ノ商賣ヲシナケレバ、此拓殖銀行ノ現在ノ維持ガ出來ナイヤウナ有様ニナツテ居ルノデアリマス、即チ資金ガ非常ニ缺乏シテ居ツテ、是以上農村方面ニ貸付ケルコトハ固定ニナツテイカヌカラ、從ツテ普通銀行ノ取引モシテ、緩和ヲ圖ラネバナラヌヤウナ態度ヲ執ツタモノト、私ハ看做シテ居ルノデアリマス、デアリマスカラドウシテモ此趣旨ニ副フニハ、何ト言ツテモ債券ノ發行額ガ十五倍以上増加スルコトガ、出來ナイ事情デアルトスレバ、増資ヲシテ發行額ヲ殖ス、是以外ニ私ハ執ル途ガナイト思フ、更ニ先達小川次官ハ北海道拓殖銀行ノ金利ガ現在非常ニ高イ、即チ最高歩合ガ八分六厘ニナツテ居ル、斯ウ云フ高イ利子デアツテハ、何商賣ニシテモ引合ハヌ、農村ニシテモ商工業者ニシテモ、是デハ引合ハヌト思ヒマス、之ヲ勸業銀行ト同ジャウニスル御意思ガアルカ

ドウカト伺ヒマシタガ、北海道ノ現在ノ金融状態ハ回收ガ困難デアツテ、金利ガ高イカラ、其必要ガナイヤウナ御答辯デアツタケレドモ、實際ハサウデハナイノデアリマス、現ニ此年賦償還ノ回收ガ出來ナイ爲ニ、競賣ト云フモノガ盛ニ行ハレテ居ル、是ハ銀行ノ立場カラ言ツテモ、整理上無理ノナイコトデアルト思フケレドモ、銀行モ困難デアルシ、債務者カラ考ヘテモ非常ニ迷惑ヲ來シテ居ルト云フ譯デアル、北海道拓殖銀行ノ現在ノ八分六厘ト云フモノハ安クハナイ、是ハ政府ニ能ク御再考ヲ願ハナケレバナラヌ、更ニ又低利資金ニ付テハ、現在北海道ニ於ケル郵便貯金ハ八千五百萬圓デアリマシテ、ソレニ對シテ四千九百萬圓出シテ居ルカラ、各府縣カラ見レバ相當ニ廻ッテ居ルト云フ御話デアルケレドモ、北海道ノ如キ特殊ノ事情ニアル土地ニ對シテハ、必ズシモ其半額ヲ出ストカ幾ラ出ストカ制限ガアルベキ筈ハナイ、府縣ニ依ツテハサウ大シテ必要ノナイ場所モアルカモ知レナイ、デアルカラドウシテモ徹底のニモット低利資金ヲ殖ヤスト云フ——是ハ勿論質問デハアリマセヌ、希望デアルカモ知レマセヌガ、此點ニ付テ先ヅ第一ニ拓殖銀行ノ増資ヲ圖ツテ、之ニ改善ヲ加ヘルト云フコトニ付テ、最大ノ御注意ヲ拂ツテ戴キタイト

思フノデアリマス、ソレカラ私ガ申上ゲタヤウニ、北海道ノ現狀ニ於テ拓殖銀行ガ資金ノ回收困難ノ爲メ、競賣ガ行ハレテ居ルト云フコトヲ御認メニナルカドウカ、是ハ細カイ問題デ、或ハ御調ガ出來テ居ラヌカモ知レマセヌガ、實際ニ於テ相當競賣ガ行ハレテ居ル、之ヲ御認メニナリマスカドウカ

○小川政府委員 板谷君ノ御質問ハ御意見モ加ツテ居ルヤウニ思ヒマス、北海道拓殖銀行ガ普通銀行ノ業務ヲヤツテ居ルト云フヤウナ御話デアルガ、是ハ法律ノ第八條ノ三ニ依ツテ不動産金融ト普通銀行業務トヲ並行シテ、營業スルコトニナツテ居リマスカラ、法律上カラ申シタナラバ、何モ不思議ナコトハアリマセヌケレドモ、實質カラ見ルト、ヤハリ不動産ノ方ニ力ヲ入レテ居リマス、是ハ事實デアリマス、ソレハ板谷サンモ既ニ御認メニナツテ居ルデアリマセウガ、不動産金融ノ方ニ資金ガ固定シテ居ルカライカヌ、斯ウ云フ御意見デアリマスガ、ソレデアリマスカラ今度ノ改正法ニ依ツテ、其固定シテ居ルモノヲ證券化シ資金化スルト云フコトデアリマスカラ、此改正法律ガ行ハレルト、板谷サンノ遺憾ニ思ツテ居ラレル點ガ、大分除カレテ來ルシ、政府モサウ云フ風ナコトヲ目標トシテ、斯ウ云フ風ナ改正法律案ヲ提出シタヤウナ次

第デアリマス、次ニ北海道拓殖銀行ノ金利ガ高イト云フコトデアリマスガ、ソレハ成程勸業銀行ノ貸シテ居ルモノヨリハ、高イコトハ認メマス、ケレドモ銀行モ一ツノ經營デアリマスカラ、實際債券ノ利廻ガドウ云フ風ニナツテ居ルカト云フコトモ見ナケレバナリマセヌ、債券ノ利廻ガ勸業銀行ノ債券ノ利廻ヨリハ高クナツテ居レバ、自然貸スノモ多少高クナルト云フコトハ已ムヲ得マセヌ、ソレヲ同ジャウニシヨウト云フコトハ、銀行經營ノ上カラハ無理ヲ強ヒルヤウナコトニナリハシナイカト考ヘルノデアリマス、且ツ北海道ノ普通ノ金利ガ高イ、水平線ガ高イノデアリマスカラ、其高イ所ノ北海道拓殖銀行ガ八分幾ラノ利子デ融通致シマシテモ、其他ノ所ノ金利カラ較ベテ見マシタ時分ニ、必ズシモ高イト、斯ウ云フ風ニハ言ヘナイト思ヒマス、金利ハ安イ程宜シウゴザイマスケレドモ、ヤハリ土地ノ經濟状態、金融状態ト云フモノニ相應シテ決マルト云フコトニナリマスカラ、已ムヲ得ヌコトデアルト考ヘマス、内地ニ於キマシテモ、東北ノ如キハ農工銀行ノ歩合ハ、殆ド北海道拓殖銀行ノ歩合ト同ジャウデアリマス、其地方々々ノ事情ニ應ジテ、自然金利ト云フモノガ定ツテ來ルト云フコトハ、板谷サンノヤウナ金融ノコトニ

能ク通ジテ居ラレル方ハ、御承認下サルコト、思ヒマス、ソレカラ低利資金ノコトハ、本會デモ申上ゲマシタヤウニ、昔カラ色々ノ議論ガアリマシテ、資金還元トカ云フヤウナコトヲヤカマシク申シマス、預金部ノ金ハ字義通りニ資金還元ト云フコトニハナツテ居リマセヌ、サウ云フモノニ一ツノ目標ノアルト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ヌコトデアル、預金部ガ郵便貯金ニ依ッテ充テガツテ居ルモノヨリモ、餘計ノ金ヲ貸シテ居ルト云フコトハ、資金還元ト云フ原則カラ言フト、其歩合ガ良イト、斯ウ云フコトニモ言ヘルノデアリマスカラ、ソコニサウ云フ標準デ擱ヘラレマス、資金運用ノ上ニ於テ勝手ニドシナコトデモ構ハヌト云フ譯ニモイカヌモノデアリマス、此間申シマシタヤウニ、成丈ケ北海道ノ方ニハ相當ノ低利資金ヲ廻シタイト云フ風ニ考ヘテ居リマシテ、事實ソレハ行ハレテ居ラウト思ヒマス、北海道拓殖銀行ヲ通ジマシテ貸出シマシタ低利資金ノ額ヲ見マヌニ、昭和五年十一月末現在ハ、四千八百六十三萬九千八百圓デアリマスガ、昭和五年十二月ノ現在ハ、五千三百八十六萬九千八百圓デアリマス、更ニ昭和六年二月二日現在ハ、五千四百三十七萬九千八百圓ニナツテ居リマシテ段々低利資金ノ額ガ殖エテ居リマ

ス、サウ云フ氣持デ運用シテ居リマスト云フコトヲ御認メヲ願ヒマス

○板谷委員

只今小川次官ハ北海道拓殖銀行ノ貸付資金ガ固定シテ居ル、ソレガ爲ニ此度抵當證券ガ實施サレルコトニナレバ、即チ非常ニ便宜ヲ得ルト云フ御言葉ガアリマシタケレドモ、私ハ先達勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行ノ現在貸付ケテアル所ノ金額ノ中ニ、市制ガ布カレテ居ル、即チ抵當證券ヲ實行サレル所ノ區域ニ於ケル貸金ト、其以外ノモノ、數字ヲ擧ゲテ申上ゲタノデアリマスガ、現在北海道拓殖銀行ニ於キマシテハ、殆ド三分ノ二ト云フモノハ市制施行地以外、即チ此度ノ抵當證券ガ實施ヲサレナイ區域以外ヘノ貸付金デアリマス、此點ハ能ク一ツ御調査ヲ願ヒタイ、更ニ又拓殖銀行ノ利子八分六厘ト云フモノハサウ高クナイ、農工銀行ト同ジデアルト云フ御話ガアリマシタガ、先達政府カラ頂戴シタ參考資料ニ依リマスト、福島ト宮城ダト思ヒマスガ、此二縣ヲ除イタモノガ八分四厘デアアル、現在ニ於キマシテハ決シテ北海道ノ拓殖銀行ノ利子ハ安クハナイ、利子ハ安クナイカラ、今御話スルヤウニ競賣ト云フモノガ期日ニ於テ年賦償還スルモノモ出來ナイ、農村ガ米ヲ初メ總テノ生産物ガ激落シテ、不動産ガ激落シテ居ルヤウナ關係カ

ラ、年賦償還ノ金額スラ拂ヘズ、競賣ガドント行ハレテ居ル狀態デアリマス、此點カラ考ヘテモ、ドウシテモ拓殖地ニ於ケル不動産金融ヲ定メルト云フコトニ付テハ、先ヅ第一ニ拓殖銀行ノ増資ヲ圖ル、株主ノ立場カラ言ヒマスレバ、九分ノ配當ヲシテ居ル、九分ノ配當ト言ヘバ銀行トシテハ割合良イ配當デアルカラ、成ルベク危険ヲ冒シテマデモ、餘計ナ貸付ヲシナイデ、極メテ安全ナル方法ヲ執ルト云フコトハ、銀行ノ立場カラ言ヘバ當然デアルカ知レナイガ、特殊銀行デアツテ、北海道開拓ト云フ一大使命ヲ持つテ居ルノデアルカラ、増資ヲシテ改善ヲサセルト云フコトニ付テ、御考ガアルカドウカ、是ハ又私共ノ希望デアリマスルガ、政府ニ於テ之ヲ斷行スルヤウナ方法ヲ執ツテ貰ヒタイ、斯ウ思フノデアリマスガ、其御意見ハドウデアリマスカ

○小川政府委員

板谷サンノ只今ノ御話ノ中デ、北海道ハ市制ヲ布イタ所ガ少ナイカラ、抵當證券法ヲ發布サレテモ恩典ニ與カルコトガ少ナイト云フヤウナ御趣旨ノ御話デアリマシタガ、會テ度々申シテ居リマス通りニ、抵當證券ノ發行モ其一ツデアリマスガ、又不動産ヲ抵當トスル債權ヲ質トスル貸付ヲ爲スト云フコトニナリマスカラシテ、市制施行地以外ノモノモ、ヤハリ之ニ

依ッテ固定シテ居リマスル不動産貸付ト云フモノガ、流動資金化シテ行クト云フコトニナルト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ、北海道拓殖銀行法中改正法律案ト云フモノガ成立致シマスレバ、北海道ノ不動産金融ト云フモノハ大變改善サレルモノデアルト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、尙ホ東北ノ比較ヲ私ガ申上ゲマシタニ付テ御意見ガアリマシタケレドモ、東北デ農工銀行ノ存シテ居リマスノハ、福島宮城ノ二縣ダケデアリマスカラ、福島宮城ノ農工銀行ノ金利ト云フモノヲ以テ北海道ト比較スルト云フコトハ、私ハ決シテ不穩當デハナイト思ヒマス、ソレニ依ッテ見マスルト云フト、東北二縣ノ農工銀行ノ金利ト云フモノハ、決シテ北海道拓殖銀行ノ金利ヨリハ安イトハ言ヘナイ、凡ソ經濟狀態ノ同ジ所ニ於キマシテ、金利ガ同ジデアルト云フコトハ、決シテ不當デナイト思フノデアリマス、次ニ北海道ノ拓殖銀行ノ増資ヲシナイカト云フコトデアリマスガ、増資ノ問題ハ銀行内部ノ事デアリマシテ、政府カラドウスル、斯ウスルト云フコトヲ斯ル席デ申上ゲタクナイト思ヒマス、其事ハドウカ御諒察ヲ願イタイト思ヒマス

○板谷委員

ソレハ勿論相手ハ株式會社デアリマスカラ、株式會社ハ自由デハ

アリマセウケレドモ、特殊銀行トシテ唯一ノ拓殖地ノ金融機關デアル、殊ニ政府ガ監督シテ居ル銀行デアルカラ、現在ノ北海道ノ不動産金融ニ付テ不満足デアルナラバ、適當ノ處置ヲ執ルノハ私ハ政府トシテ當然デヤナイカト思フ、政府ノ責任トシテ當然執ルベキ處置デハナイカト私ハ考ヘルノデアリマスカラ、御所見ヲ伺ッタノデアリマスガ、

シテ來タノデアリマスウケレドモ、其實現ヲ今日マデ見ナイノデアリマスカラ、政府ハソレニ對シテドウ云フヤウナ考ヲ持ッテ居ラレルカ、即チ民衆ノ資金ヲ集メルコトニ付テ何等カーツ方法ヲ御考願ヒタイト思フノデアリマスルガ、其御所見ヲ伺ッテ置キマス

ス、隨テ政府ガ今日ニ於キマシテ北海道拓殖銀行ノ債券發行ニ割増制度ヲ用ヒルト云フコトニ付テハ、マダ考ヘテ居リマセヌ

トシテノ使命ヲ全ウスル上ニ於テ、モット一ツ御考慮ヲ願ヒタイ、此意味ニ於キマシテ手ヲ取り早イ話ガ、即チ増資ヲシテ債券發行額ヲモット殖ヤスカ、或ハ十五倍ヲ二十倍位ニスルト云フ以外ニ、私ハ途ガナイト思フカラソレハ政府ノ責任トシテ監督ニアル責任トシテ、成程株式會社デアルケレドモ、之ニ對應スル策トシテ、私ノ今御話シタコトヲ出來ルダケ實現スルコトニ努力スルト云フ斯ウ云フ御話ガアルナラバ私ハ満足シマス、併ナガラ現狀ニ於テ殆ド満足シテ居ルト云フ御答辯デア

更ニ又伺ヒタイノハ現在北海道拓殖銀行ノ出シテ居ル債券ト云フモノハ、非常ニ割ガ惡イ、成程今申上ゲタ通り資本金モ不足デアル、又勸業銀行カラ見レバ看板モ惡イシ、信用モ伴ハヌ、債券發行ハ不利デアルカラ、隨テ利子ノ高イ債券ヲ出サナケレバナラヌト云フコトハ、小川次官モ御説明ニナリ、私

○小川政府委員 板谷サンノ御話ノ中ニ増資ト云フコトヲ非常ニ強ク御話ニナリマスガ、併シ今回拂込資本金額ノ十五倍ノ限度ノ債券ヲ發行スルコトガ出來ルコトニナリマス、ソレニ依ッテ北海道拓殖銀行ガ資金ヲ多ク得ルノデアリマスカラ、資金ヲ多ク得マスレバ、融通ガ能ク出來ルト云フコトニナルノデアリマス、此方法デ相當ニ板谷サンノ訴ヘラレテ居ル所ノ事情ニ應ジテ行

見ル所ニ依リマスレバ、先程御話ノヤウニ市制ノ布カレテ居ル以外ノ土地ニ對スル金融ヲ望ムモノガ多イノデア

ルカラ、勢ヒ私ハ同ジ質問ヲ繰返サナケレバナラヌノデアアル、此點ハ能ク一ツ御諒解ヲ願ッテ置クノデアアル、ソレカラ現在北海道ノ不動産ニ對シマシテハ、勿論銀行ノ立場カラ行キマスナラバ、株式會社デアルカラ成べく損ヲシナイヤウニ、出來ルダケ所謂自衛上安

拓殖銀行ガ出シテ居ル債券ト云フモノハ大部分普通銀行ガ應募シテ居ル、其殆ド半額ト云フモノハ低利資金ト云フヤウナ狀態ニナッテ居リマスルノデ、勸業銀行ノヤウニ廣ク債券ヲ募集スル、即チ一般ノ民衆ノ零細ナ資金ヲ集メルト云フコトニ付キマシテハ、何ト云ッテモ何等カ違ッタ方法ニ依ラナケレバナラヌ、

銀行ニ此制度ヲ認メマスニ付キマシテモ、隨分ノ議論ガアッタト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ制度ヲ何處モ彼處モ用ヒルト云フコトハ、是非非常ニ慎重ニ考究ヲ要スルコトデアルト考ヘマ

シマシテノ需要ト云フモノハ、今御話ノ如ク或ハ現在ノ十倍カ五倍ニナッテ、八千四百萬圓程度ニ於テ、稍其希望ヲ滿タスコトガ出來ルカモ知レマセヌ

ガラ植民地デアリマスカラ、隨テ未開地ガ多イ、例ヘバ政府カラ相當ノ土地ヲ拂下ゲテ受ケテ居リマシテモ、收入ガ伴ハナケレバ銀行ハ金ヲ貸サナイ、隨テ五百町歩千町歩ト云フ大キナ地積ト云フモノガ、殆ド空漠タル原野トシテ其儘ニ放任サレテ居ルト云フコトハ、私ガ申上ゲマセヌデモ、大藏次官

重ニ考究ヲ要スルコトデアルト考ヘマ

シテ來タノデアリマスウケレドモ、其實現ヲ今日マデ見ナイノデアリマスカラ、政府ハソレニ對シテドウ云フヤウナ考ヲ持ッテ居ラレルカ、即チ民衆ノ資金ヲ集メルコトニ付テ何等カーツ方法ヲ御考願ヒタイト思フノデアリマスルガ、其御所見ヲ伺ッテ置キマス

○板谷委員 同ジャウナ問題ヲ繰返スヤウデアリマスウケレドモ、北海道ノ金融ニ取ッテハ重大ナ關係ガアリマスルカラ、私ハ自分ノ腑ニ落チルマデ、分ルマデ能ク一ツ御尋ネシナケレバナラヌノデアリマスガ、只今大藏次官ハ又更ニ繰返シテ一度抵當證券法ガ實行サレ、バ、北海道ノ金融ガソレダケ宜クナルト云フ御話デアリマスガ、私共ノ

ハ、勿論銀行ノ立場カラ行キマスナラバ、株式會社デアルカラ成べく損ヲシナイヤウニ、出來ルダケ所謂自衛上安

モ能ク御承知ノコト、思フ、之ヲ拓クニハドウシタラ宜イカ、勿論金融機關デアル北海道拓殖銀行ト云フモノガ、先づ第一ニ之ニ對スル相當ノ方法ヲ講ズルノガ當然デアル、收入ガアリマセヌデモ、土地ヲ開墾シテ出來上ツタナラバ、開墾助成法ト云フモノ、補助ヲ貰フモ宜シイ、或ハ又耕地整理ノ場合ニ於キマシテモ、相當ノ補助金ガ出テ居ル、デアルカラシテ是等ヲ擔保ニシテアルトカ、何トカ未開地ニ對スル相當ノ金融ノ途ヲ講ズル、之ニ付テ何等カノ御考ガアリマセヌカドウカ、是モ一應承ツテ置キマス

○小川政府委員 板谷サンノ只今ノ御話ニ、政府ハ現狀ニ満足シテ居ルヤウデハナイカト云フヤウナ御趣旨ノ御質問ガアリマシタガ、實ハ其現狀ヲ改メヨウトシテ此案ヲ提出シテ居ルノデアリマシテ、第一ハ今申上ゲマシタヤウニ抵當證券ヲ發行致シマシテ、不動産ヲ抵當トスル債權ヲ質トスル貸付ヲ行フコトニスル、ソレデ今マデ固定シテ居ッタ資金ヲ動カシテ行ク、斯ウ云フコトニナリマスカラ、農村ノ田畑ノ方ニモサウ云フ金ガ廻ッテ來ルコトニナルト思フノデアリマス

ソレカラソレニ對シテ債券ノ發行額ヲ拂込資本金ノ十五倍ニスル、ソレデ資金ガ潤澤ニナル、斯ウ云フヤウナ兩方

面ヲヤッテ居リマスカラ、現狀ニ満足スルノデハアリマセヌデ、現狀ヲソレダケ善クシテ行クト云フコトニナルト思フノデアリマス、故ニ債券發行額ヲ拂込資本金額ノ二十倍ニシタラドウカト云フ御話モアリマスケレドモ、ソレハ程度デアリマシテ、板谷サンガ本會議ニ於テ御聞キニナリマシテ、十五倍ニスル必要ハナイカト言ハレマシタノデ、物ニハ順序ガアリマスカラ、十五倍位ニシタラバ程々ノ所デハナイカト考ヘルト申上ゲタノデアリマス

次ニ未開地ニモ金ヲ貸スヤウニシタラドウカト云フ御話デアリマスガ、ソレハ御尤ノ御話デアルト思フノデス、金融ヲ求ムル方カラハサウデアリマス、併シ金ヲ貸ス方カラ言ヒマスト、其資金ガ還リ、サウシテ其利子ガ十分ニ拂込マレルト云フコトヲ考ヘナケレバナリマセヌデスカラ、其處ハ事ノ宜シキヲ得ルヤウニセナケレバナラヌト思フノデアリマス、成タケ當業者ヲ督勵シテ御希望ニ副フヤウニ努メマスカ、銀行經營ト云フモノヲ考ヘマスカラバ、非常ナ無理ナ貸出ト云フモノハ出來ナイ、是ハ又認メテヤラナケレバナナルマイト思フノデアリマス

○板谷委員 ドウモ私ハ未ダ自分ノ腑ニ落チマセヌガ爲ニ、遺憾ナガラ同ジ質問ヲ繰返サナケレバナラヌカラ、更

ニ御尋致シマスト云フコトヲ御承知置テ願ツテ置キタイ、再三繰返シテ申スヤウデスガ、抵當證券法ガ實施サレ、バ、ソレダケ資金ノ運轉ガ善クナルト云フコトヲ御話ニナルナラバ、私ハ更ニ聞カナケレバナラヌ、今現在ノ北海道拓殖銀行ガ如何ナル方面ニ貸付シテ居ルカ、如何ナル方面ガ最モ資金ノ需要ヲ多ク望ンデ居ルカト云フコトヲ申上ゲタノデアルガ、此抵當證券法ガ實施サレマシタナラバ、北海道拓殖銀行ハ其取ツタ所ノ抵當證券ヲ他ヘ持ッテ行ッタナラバ、無論金ノ融通モ出來マセウケレドモ、御承知ノ通り特殊銀行デアリマスカラ利子ガ安イ、利子ガ安イカラ拓殖銀行ガ取ツタモノヲ、或ハ勸業銀行ナリ、其上ノ銀行ニ持ッテ行タナラバ、ソレハ別問題デアリマスケレドモ、今アナタガ御話ノヤウニ、中々サウ各方面マデ、普通銀行ガ貸シテ居ル證券ヲ外ニ持ッテ行クヤウニ、拓殖銀行ガ取ツタ抵當證券ト云フモノハ、サウ廣ク運用ナドヲサレルモノデハアリマセヌ、實際ニ於テアリマセヌ、又將來ニ於ケル資金ノ需要ハ、北海道ノ開發ニ對シテハ何ト云フモ市制ノ施行シテ居ル以外ノ方面ニ於テ、最モ多イノデアリマスカラ、之ニ付テ御考慮ヲ願ヒタイ、勿論現狀ニハ御満足ニナッテ居リマスカイシ、又抵當證券ノ發行ノ結果幾分ノ

效果ハアリマスケレドモ、拓殖銀行ハ株式會社デアルト云フモノ特殊銀行デアツテ、政府ガ監督ノ責任ノアル銀行デアリマス、勿論何レノ銀行ニ對シテモ責任ハアルガ、殊ニ特殊銀行トシテ唯一ノ使命ノアル拓殖地ノ不動産銀行デアリマスカラ、吾々モ出來ルダケ拓殖銀行ニ向ッテ、一面ニ於テハ増資ヲサセ、或ハ一面ニ於テハ出來ルダケ内部ノ改善ヲ圖ルコトニ付テ吾々ガ迫ル、迫ルケレドモ政府ニ於テモソレダケ位ノ勞ヲ執ッテ、北海道ノ爲ニ努力シテ戴キタイ、ソレヲサセルト云フコトノ御言明ガ出來ナイノデスカ

○小川政府委員 同ジコトヲ繰返シヤウデアリマスガ、少クトモ此改正法律案ニ於テ、北海道拓殖銀行ノ資金ガ從來ヨリモ潤澤ニナルト云フコトヲ御認メニナレバ、農村、詰リ田畑ノ方ヘ融通スルコトモ都合好クナル、斯ウ云フコトハ御認メ下サルト思フノデアリマス、ソレヲドレ位ノ程度ニスルカト云フコトニナリマスト、其處ハ意見ノ相違ト云フコトニナルカ知レマセヌ、只今申シマシタヤウニ、増資ノ問題トカ債券發行高トカ云フヤウナコトニナリマスト、色々ナ意見モアリマセウケレドモ、政府ハ今日ノ程度デ宜イト考ヘテ居ル譯デアリマス、尙ホ具體的ノ問題ニナリマスト、色々又銀行ト營業者

ト相談ノ仕方モアルト思フノデアリマ
スガ、大體ノ方針ト致シマシテハ此改
正法律案ハ北海道ノ金融ニ對シテ大變
都合好クナルト云フコトヲ、政府ハ信
ジテ居リマス

○板谷委員 意見ノ相違デアリマセ

ス、私ハ北海道ノ現狀、拓殖銀行ノ有
様ヲ申上ゲテ質問シテ居ルノデアリマ
スガ、ドウカ政府ニ於カレテモ、現在
ノ拓殖銀行デハ吾々ハ満足ラシテ居ラ
ヌノデアリマスカラ、一面ニ於テ増資
ナリ、又出來ルダケ改善ノ方法ヲ講ジ
テ戴キタイ、是ハ私ハ希望トシテ政府
ニ極力御願ヲ申上ゲテ置イテ、此質問ハ
此程度ニ止メテ置キマス、更ニ又北海
道ハ御承知ノ通り島國デアリマシテ、
水産方面ニ對シマスル所ノ金融ト云フ
モノハ極メテ不圓滑デアアル、此點ニ付
テ昨日大久保政府政員ニ對シテ現在ノ
漁業——水産ニ對スル貸付方法ガ不完
全デアアルカト云フコトヲ御尋シテ置イタ
ノデアリマスガ、是モ私ハ希望ト致シ
マシテ、將來北海道ノ水産金融ニ對シ
マシテハ、唯一ノ不動産銀行デアアル所
ノ拓殖銀行ニ對シテ、出來ルダケ此途
ヲ拓ク方法ヲ講ジテ戴キタイト云フコ
トヲ御願シテ置キマス、更ニ北海道ノ
金融問題即チ拓殖銀行ニ關聯ヲ致シマ
シテ、最も重大ナル關係ニアリマスル
北海道ノ拓殖計畫ノ財源ニ付テ御尋ラ

シタイ、是ハ小川次官並ニ北海道長官
ノ御兩君ニ對シテ御伺致シタイト思フ
ノデアリマスガ、先達ノ私ノ本會議ニ
於ケル所ノ質問ニ對シマシテ、小川次官
ハ昭和五年ニ於ケル所ノ北海道拓殖計
畫ナルモノハ、前年度ノ北海道ニ於ケ
ル一般會計ノ超過收入ヲ以テ、其財源
ニ充テル、斯ウ云フ建前ニナツテ居ル
ノデアリマスガ、昭和五年度ノ豫算ハ
二千七百三十三萬圓ト計上サレテ居ルノデ
アリマス、併ナガラ拓殖計畫ノ年度割
カラ申シマスルナラバ、三千十三萬四
千圓ナケレバ出來ナイ、是ハ年度割デ
アル、所ガ前年度超過收入ハ二千七百
三十三萬圓シカナイ、是ハ北海道廳カラ出
テ居ル所ノ北海道ノ拓殖豫算參考書ニ
明細ニ記載サレテ居ルノデアリマス、
然ルニ昨年ノ臨時議會ガ終了致シマシ
テ、三週間經ツカ經タナイ中ニ、實行
豫算ト稱シテ百八十八萬圓ヲ減セラレ
タ、即チ北海道ノ超過收入ヨリ百八十八
萬圓ヲ奪取シタモノデアルト私ハ申上
ゲタノデアリマスルガ、サウデヤナイ
ト云フ御話ニナツタノデアリマス、二千
七百三十三萬圓ト云フモノハ前年度ニ於ケ
ル所ノ超過收入デアッテ、一般會計カラ
一厘モ補充サレテ居ル金額デハアリマ
セヌカラ、之ヲ御認メニナルカドウカ、
若シ小川次官ガ御分リニナリマセヌナ
ラバ、北海道長官デモ宜シウゴザイマ

スカラ、ドウゾ御答辯ヲ願ヒタイト思
ヒマス

○小川政府委員 昭和五年度ノ北海道
ノ拓殖費ノコトニ付テノ質問デアリマ
ス、是ハチヨット私此前ノ本會議デ簡單
ニ答ヘテ置キマシタガ、此場合能ク御
話ヲシテ置キマス、只今板谷サンカラ北
海道拓殖計畫ノ、昭和五年度ノ年度割ガ
三千十三萬圓ニナツテ居ルト云フ御話デ
スガ、ソレハ其通りデアリマス、是ハ御
承知ノ通りニ昭和二年ニ於キマシテ閣
議決定デ、拓殖ノ方針ガ決マツテ居リマ
ス、其時分ノ歲入ヲ基準ト致シマシテ、
年々北海道ノ歲入ガドウ云フ風ニ増シ
テ來ルカト云フコトヲ考ヘ、即チ自然
增收ヲズツト考ヘテ、勿論經費ノ方モ
段々殖エテ來タノデアリマスガ、其歲入
ノ超過額ト云フモノヲ考ヘテ、昭和五
年度ニナツタナラバ、約三千十三萬圓ニ
ナル、斯ウ云フ風ニ割出シタノガ、アナ
タノ仰シヤル所ノ年度割ダト思フ、然ル
所、其後ノ財界ハ其當時豫想シタ如ク
ニ進マナカッタ、却テ財界ガ惡イデスカ
ラシテ、其増加收入ガ豫期ノ如ク這入ッ
テ來ナイ、從テ歲入ノ超過額ト云フモ
ノガ違ッテ來タ、斯ウ云フコトニナルノ
デスカラ、三千十三萬圓ト云フノハ今
標準ニナラナイト思フ、二千七百三十三
萬圓程ノモノガ、昭和二年ノ閣議決
定ニ基イタ拓殖費ノ財源ニナリマス、

是ガドウ云フ風ニシテ出來テ來タカト
言ヘバ、丁度閣議決定ニ依ッテ出來タノ
デアリマス、此處ニ一ツ其計數ヲ申上
ゲマスガ、昭和五年ノ財源ハ、昭和四年
度豫算ニ於ケル歲入超過額ガ、二千三
百六十四萬八百四十七圓ニナリマス、
ソレカラ昭和三年度決算ニ於ケル剩餘
額ガ百三十一萬七千八百八十三圓、昭和
三年度道外法人ノ收入、即チ北海道以
外ノ所カラ、法人所得稅ヤ其他ノ法人
營業收益稅ナンカノ收入ガ這入ッテ參
リマス、是モ見テアリマス、ソレガ二百
八萬千八百九十一圓、此三ツヲ合計シ
タモノガ二千七百三十三萬九千九百二十一
圓デアリマス、是ガ只今御話ニナツタ二
千七百萬圓餘ノ數字デアリマシテ、此
數字ハ若槻内閣ノ時分ノ閣議決定ノ、
アノ方針ノ儘デ計算シタモノデアリマ
ス、豫算ハ斯ウ云フ風ニ出來テ居リマ
スカラ、何モ間違ッタコトハアリマセ
ヌ、所デ今アナタノ問題ニセラレテ居
リマス百八十八萬圓ヲ一般會計ニ奪ッ
タノデハナイカト云フコトデアリマス
ガ、ソレハサウデナイ、是ハ私ハ本會議
デ申上ゲタノデアリマスガ、御承知ノ
通りニ昭和五年ハドウ云フ時デアアルカ
ト言ヘバ、非常ニ歲入ガ減ズル——世
界不景氣ノ影響ヲ受ケテ歲入ガ非常ニ
減ズル、斯ウ見タノデアリマス、原因ニ
付テハ人各々觀ル所ヲ異ニシマセウガ、

實際收入が減ズルト云フコトハ何人モ之ヲ認メザルヲ得ナイ、政府ハ昨年ノ七月頃ニ、初メノ豫算ヨリハ八千萬圓程モ租税其他ノ經常收入が減ズルモノト見タノデアリマス、政友會ノ皆サンハ、ソレヨリモモット減ルノデハナイカト云フヤウナ御話モアルヤウナ次第デアリマス、ダカラサウ云フヤウナ氣持ヲ是認シテ行キマス、ドウナルカト云フト、北海道モ單リ例外タル能ハズ、ヤハリ收入が減ルノデハナイカ、斯ウ見ルノガ私ハ當然ダト思フノデアリマス、ソレデ收入ノ減ズルト云フコトヲヤハリ見テ來タ譯デアリマス、特ニ歳入ハ減ゼナイモノト見テ、サウシテ豫算ヲ行フト云フコトハ北海道拓殖計畫ノ趣旨デハナイ、斯ウ考ヘタ譯デアリマス、又他方ニハ物價ガ下ッテ居リマスカラシテ、其物價ノ下ッタコトヲ金ヲ支出スル方ニモ考ヘナケレバナラス、ソレヲ行政ノ經濟化ト政府ハ言ッテ居リマス、兎ニ角物價ガ安イカラ、ソコニ金ヲ出スコトヲ多少加減シテ行カナケレバナライ斯ウ云フ譯デ割出サレタモノガ、歳入ノ方ト歳出ノ方トデ百八十八萬圓ト云フ金ガ出テ來タノデアリマス、經費ノ方カラ言ヒマスレバ百八十八萬圓ヲ節約シタノデアリマス、ソレダケノモノハ北海道ノ收入ガ減ル、斯ウ云フ風ニ見タ譯デアリマス、或ハ

モット突込シテ八千萬圓ノ歳入減デハ足リナイト云フ論者ニ言ハセマス、北海道ノ歳入ハ百八十八萬圓トコロデハナイ、モット減ルト言フカモ知レマセヌ、併シ政府ハマア此位デアラウト云フ所ヲ抑ヘテ、百八十八萬圓位歳入モ減ルデアラウカラ、歳出モ百八十八萬圓位節約ヲシテ行カウ、斯ウ云フコトデ百八十八萬圓ト云フ數字ガ出テ來タノデアリマス、即チ二千七百萬圓ノ豫算ニ付キマシテ、實行豫算デ實行額ト云フモノガ二千五百十五萬九千四百四十八圓、斯ウ云フ數字ガ出テ來タノデアリマシテ、何モ之ヲ一般會計ノ方ヘ奪フト云フコトニハナライノデアリマス、北海道ノ收入ガ減リ、北海道ノ拓殖ノ歳出ガ減ル、斯ウ云フコトヲ見テ取ッタノデアリマスカラ、何モ一般會計ヘ少シモ奪ヒ取ルト云フヤウナコトニナライ、其コトヲ私ハ本會議デ御答ヘ申シタ譯ナノデアリマス、併シ將來ニ於テ政府ノ思ッテ居ルヨリモ歳入ガ多ク入ッテ來タト假ニシマス、サウシマスト歳入剩餘ト云フモノガ出テ來マスカラ、歳入剩餘ト云フモノヲ今度ハ後年度ノ拓殖費ノ財源ニ使用スルコトニナッテ居リマス、ソレハ若槻内閣ノ時ニ閣議デ決マッテ居リマスカラ、其時ニ至リマシテ若シ決算デ剩餘ガアルト致シマス、昭和七年度ノ拓殖費ノ財源ニ

ナッテ來ルダラウト思フノデアリマス、一般會計ガ之ヲ奪フトカ何トカ云フヤウナコトハナイ譯デアリマス
○板谷委員 サウ致シマス、今ノ御説明ニ依リマスレバ、昭和三年度ノ決算竝ニ道外ノ收入二千七百三萬圓ト云フモノガ、北海道ニ於ケル前年度ノ超過收入デアアル、是ハ御認めニナルノデスナ
○小川政府委員 サウデス
○板谷委員 更ニ質問シタイト思フノデアリマス、昭和五年度ノ豫算ハ御承知ノ通りニ、民政黨内閣時代ノ臨時議會ニ於テ、一般會計カラ何等ノ補充ヲサレズシテ、前年度ノ超過收入二千七百三萬圓ヲ決定シタノデアリマスガ、其後ニ於ケル大藏省ノ態度ハ、其中カラ三百七十六萬圓ヲ減ズルト云フヤウナ、大藏省ノ原案デアッタノデアリマス、所ガ色々長官始メ他ノ方面ノ人々ノ努力ニ依ッテ、ソレノ半分ガ復活サレテ、百八十八萬圓ヲ復活サレタ、斯ウ云フノデアリマシテ、大藏省ガ其節制ヲタ所ノ態度ハ、三百七十六萬圓ヲ減ズルト云フ原案デアッタ、サウスルト今大藏次官ノ御話ノヤウニ、北海道ノ超過收入ヲ奪フ——ト云フ言葉ハ語弊ガアルカ知リマセスガ——北海道ニ於テハ所謂自給自足主義ハ當然執ラナケレバナラス、ソレノニ三百七十三萬圓ト云フモノヲ、唯無謀ニ中央ニ於ケル歳入

ガ減ジタガ爲ニ減ズルト云フ原案ガ出タ以上ハ、私ハ今ノ御話ノ御趣意ト副ハヌモノト思フ
更ニ伺ヒタイノハ昭和六年度ノ豫算ハ、道廳カラ内務省ニ差出シタ所ノ金額ハ、慥カ二千八百四十七萬圓ト聞イテ居リマス、即チ是ハ百八十八萬圓其前年度カラズット來タ所ノ金ヲ加ヘテ、長官ガ内務省ニ對シテ要求ヲサレタ、其中カラ四百四十三萬圓ト云フモノヲ減ゼラレタ、更ニ又小川次官ノ御話ノ如ク北海道ノ財源ノ大體ノ基本ト云フモノハ二千五百十五萬圓ニナッテ居ル、如何ナル場合ニ於テモ此基本ノ二千五百十五萬圓ト云フモノハ、動カスコトガ出來ナイ建前ニナッテ居ルヤウニ私ハ聞イテ居リマス、然ルニ此基本ノ二千五百十五萬圓カラ引クコト百一十一萬圓、是ハ政府ガ所謂五分ノ天引ヲサレタ其飛バツチリヲ喰ッテ、ヤハリ北海道ノ拓殖財源ト云フモノハ引カレタ形ニナッテ居ルヤウニ思フノデアリマスガ、吾々ノ見ル所カラ言フト、全然前年度ノ超過收入ト云フモノハ基本トセズシテ、而シテ唯政府ノ都合ニ依ッテ之ヲ引カレタモノデアアル、斯ウ云フ風ニ解釋シテ居ルノデアリマスガ、ソレニ對スル御意見ハ如何デアリマスカ
○小川政府委員 初メノ昭和五年度ノ財源ハ、前申述べタヤウナ譯デ、昭和

四年度ノ豫算ニ於ケル歳入超過額ト、昭和三年度ノ決算ニ於ケル剩餘額ト、昭和三年度ノ道外法人ノ收入トノ三ツデ形作ラレテ居ル、是ハ前ノ閣議ノ決定ノ通りデアリマス、ソレカラ昭和六年度ノ方デアリマスガ、六年モ亦今言フヤウナ三ツノモノカラ出来テ居ルノデアリマシテ、詰リ二千四百四萬千八百九十二圓ニナツテ居リマスガ、ソレモ昭和五年度ノ歳入歳出實行豫算ニ於ケル所ノ歳入ノ超過額ト、昭和四年度ノ決算剩餘額ト、昭和四年度ノ北海道外法人收入額ト云フモノ、三ツヲ合セテ見ルト、二千四百四萬千幾ラニナルノデアリマス、ソレデ此計算ノ仕方ハ、閣議ノ決定ノ通りデアリマス、所デ尙ホ長官ノ方デ要求セラレタヤウナモノハ、此決定以外ニ、他ノ拓殖費ト云フモノハ是レ位要ルカラ、是ダケノ經費ヲ認メヨト、斯ウ云フ要求ガ出ルノデアリマスカラ、ソレハ「プラス」ニナリマス、其事ハ曾テ昭和三年四年ニモアツタ例デアリマシテ、若槻内閣ノ閣議決定ノ其財源以外ニ、更ニ一般會計ノ方カラ金ヲ取ツテ来ヨウト云フヤウナコトヲ考ヘラレルノハ、北海道長官トシテ決シテ不都合デハナイ、ソレハ職ニ忠實ナル爲ニサウ云フ要求ヲ出スノハ當然ダト思ヒマスガ、併シ今日ノ如ク財政ガ困ツテ居リマス時分ニハ、サ

ウ云フ若槻内閣ノ閣議決定以外ノモノヲ一般會計カラオ助ケ申上ゲルコトハ今出来兼ネル、斯ウ云フ事ニナツテ、北海道長官ノ要求ガ其通りニナラナカッタト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ヌコト、思フノデアリマス、其點ヲ一ツ能ク御諒解ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレデアリマスカラ今板谷サンノ御話ニナリマシテモ、初メ三百七十萬圓ト言ツテ居ツテ、ソレガ百八十萬圓ニナツタ、斯ウ云フヤウナ事モ多少北海道拓殖ノ方カラ言フト、金ヲ餘計使ヒタイト云フコトヲ北海道長官ガ御考ヘニナルノハ當然デアリマスケレドモ、實ハ是ハ内輪ノ話デアリマスケレドモ、北海道ノ收入ガドレ位減ルカ、是ハ見込デアリマスカ、今百八十八萬圓ニ落付イテ居リマスケレドモ、實際ハアナタデモ一寸御考ヘ下サイ、政府ガ初メ三百七十萬圓程要求シタト云フコトハ、是ハ虛心坦懷ニ考ヘタラ、決シテ好イ加減ナ無理ナ事ヲ言ツテ居ルトハ御考ヘニナルマイト思フノデアリマスガ、併シ其處ハ見込ニ付テ、北海道長官ト大藏省トノ間ガ、百八十八萬圓ノ限度デ收入モ減ルダラウ、經費モ其邊ノ所デ減ジテ行カウ、斯ウ云フ事ニ折合ッタノデアリマス、是ハ見込ノ話デアリマスカラ、決算ニ於テハ或ハ恐ル、大藏省ノ初メ

申上ゲタヤウナ數字ガ出ルノデハナイカ、斯ウ思ツテ居リマス、サウ云フ數字ガ出タラドウスルカト云フト、昭和七年ノ方ノ財源ガ苦シクナツテ来ルコトニナルト思フノデアリマス、何モ昭和五年度ニ北海道長官ノ言ハレタコトヲ、吾々ガ削ッタ言ヒマスカ、値切ッタ言ヒマスカ、サウシタ所デ北海道ノ方ニ惡イ結果ガ来ルモノデアリマセヌ、若シ北海道長官ノ要求ニ應ジテ其通りニヤツテ行ッタナラバ、昭和七年ノ財源ガモツト酷イコトニナリハセヌカ、北海道ニ對シテ大藏省ノ今ヤッタコトガ迷惑ニナルコトニハナラナイ、サウ云フヤウニ考ヘテ居リマス

○荒川委員長 板谷君ハ北海道ノ拓殖ニ御熱心デアルカラ、成ベク寛容シマスカ、モウ此程度デ……

○板谷委員 モウ一言ダケ——是デ止シマス——只今小川政務次官ヨリ北海道ノ昭和五年度ノ豫算、即チ民政黨内閣ニ於テ決定シタル所ノ金額二千七百三萬圓ト云フモノハ、前年度ノ超過收入デアアル、此明快ナル御答辯ヲ得マシテ私ノ質問ニ對スル此點ハ満足致シマス、併ナガラ其後ニ於ケル所ノ事ニ付キマシテ、縷々御話ガアリマシタケレドモ、是ハ私能ク諒解致シマセヌ、又御答辯モ極メテ不満足デアアル、吾々ハ即チ前年度ノ超過收入ナルモノハ、北

海道ニ於テ全部使フモノデアアル、中央ニ於ケル所ノ歳入ハ減ジテモ、建前トシテ使フモノデアアルト云フ此信念ニ於テハ何等變リハナイノデアアルガ、今前年度ノ超過收入デアアルト云フ御言明ヲ得タコトデ満足シテ置キマス、尙ホ此問題ハ委員長カラ御注意ガアリマシタカラ、他ノ適當ノ機會ニ御質問致シタイト思ヒマス、尙ホ序デスカラ甚ダ恐縮デアリマスガ、長官ニ對シテ一言質問ヲ致シテ置キマス、先程申上ゲマシタ北海道ノ工業學校ノ問題ニ付キマシテ、道會デ既ニ決定シタ其後ニ、所謂實行豫算トカ何トカ言ツテ學科ヲ縮小シタト云フコトニ付テ道民ガ非常ニ心配シテ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテハサウ云フコトハアリマセヌカ

○池田政府委員 サウ云フコトヲ私ノ方ヘモ地方ノ人ガ陳情シヨウトシテ来タノガアリマス、私ハサウ云フコトハアリ得ベカラザルコト、思ツテ居リマシタガ、唯念ノ爲ニ學務部長マデ、斯ウ云フモノガ来テ居ルガ、ソレハサウ云フコトハナイ筈ダガドウカト云フコトヲ照會シテ居リマス、マダ返事ハ来マセヌ、併シ私ハサウ云フコトハナイト今ノ所思ツテ居リマス、唯留守中デゴザイマスルカラ、返事ガ来レバ明ニナルコト、思ツテ居リマス

○板谷委員 サウスルト、若シソレヲ

削減スルヤウナ返事ガ來マシタ場合ニハ、アナタハソレニ反對シテ阻止シテ下サルト云フ御考デアリマスカ

○池田政府委員 ソレハ一寸事情ヲ聽イテ見ナケレバ、今明ニ分リマセヌケレドモ、今ノ所ハサウ云フコトハアリ得ベカラザルコト、思フテ居リマス

○荒川委員長 是ヨリ貯蓄銀行法中改正法律案ノ審議ニ移リマス、ソレニ付テ政府ニ於テ必要ト認ムル所ヲ御説明ヲ願ヒマス——小川政務次官

○小川政府委員 貯蓄銀行法中改正法律案ノ理由ハ、本會議デ極メテ簡單ニ説明ヲシテ置キマシタガ、是カラノ御質問ノ便宜ノ爲ニモウ少シ進ミマシテ此提案ノ理由ヲ説明シテ置キタイト思ヒマス

我國ノ貯蓄銀行ハ、沿革モ相當舊ク、又郵便貯金及信用組合ノ制度ト相俟ッテ貯蓄機關トシテ發達シテ來タモノデアリマシテ、大正十一年貯蓄銀行條例ヲ廢シ、貯蓄銀行法ヲ實施致シマシテヨリ、其制度モ略々整備シ、銀行ノ狀態モ漸ク改善セラル、ニ至リマシタガ、貯蓄銀行法ヲ施行致シマシテヨリ約十年餘ヲ經過シ、其間財界ノ變遷、信託法規ノ制定、其他實施後ノ實情ニ鑑ミマシテ、現行法ニ一部ノ改正ヲ加フル必要ヲ認メマシテ本案ヲ提出シタル次

第デアリマス、而シテ今回ノ改正ニ當リマシテモ、貯蓄銀行ハ零細ナル資金ヲ受入レ之ヲ安全確實ニ保管利殖スル機關ナリトスル現行法ノ精神ハ毫モ變更スル必要ヲ認メマセヌカラ、此方針ハ依然之ヲ遵守スルコト、致シマシテ改正ヲ企テタノデアリマス

改正ノ第一點ハ、貯蓄銀行ノ業務中ニ、國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券ノ割賦販賣及ビ是等有價證券ノ募集又ハ其元利金支拂ノ代理取扱ヲ追加スル點デアリマスガ、有價證券割賦販賣ハ、庶民階級ノ貯蓄ノ一方法トシテ極メテ適當デアリ、又元來割賦販賣ガ貯蓄銀行ノ定期積金ニ極メテ類似シテ居リマスノデ、之ヲ貯蓄銀行ニ併營セシメルコトヲ認メマシテ、又販賣スベキ有價證券ノ募集ヤ元利金ノ代理支拂ヲ貯蓄銀行ニ取扱ハシムルモ別段支障ナキノミナラズ、却テ便宜ガ多カラウト思ヒマシテ、之ヲ追加致シマシタ

改正ノ第二點ハ、資金及有價證券ノ運用範圍ノ擴張デアリマスガ、今回運用範圍ノ擴張ヲ認メマシタモノハ、道府縣市町村ニ對スル短期貸付、小額短期貸付、大藏省預金部ヘノ預金、信託會社ヘノ金錢信託及有價證券ノ信託、並ニ信託會社ノ引受アル手形ノ買入デアリマスガ、右範圍ノ運用ハ、其確實

性ヨリ見テ、又ハ庶民階級ノ經濟力ノ増進、又ハ貯蓄ノ美風涵養等ヨリ見マシテ、之ヲ貯蓄銀行ニ許スヲ適當ト認メマシタ次第デアリマス、唯是等ノ資金運用ニ付キマシテハ、種々ノ點ヲ考慮致シマシテ、貯蓄銀行ガ放慢ナル經營ニ流レナイヤウ相當制限規定ヲ設ケテ居リマス、特ニ小額無擔保貸付ノ如キハ、其性質上慎重ニ取扱フ必要ガアリマスノデ、一人ニ對シテ千圓以內ニ限リ、且ツ其總額ハ拂込資本金及準備金ノ五分ノ一ヲ限度トスルコト、シ、又其貸付ニ付テハ、二人以上ノ確實ナル保證人ヲ要スルコト、致シマシタ

次ニ改正ノ第三點ハ大藏省預金部ヘノ預ケ金ヲ以テ貯蓄銀行ノ供託證券ニ代用セシムル點デアリマス、現行法ニ於キマシテハ、預金其他ノ受入金ノ拂戻擔保ハ供託シテアル國債、其他ノ有價證券ニ限ラレテ居リマスガ、大藏省預金部預金ハ國債ト同様、拂戻擔保トシテ安全且ツ適當ナルノミナラズ、資金運用ニ於テ之ヲ認メマシタ關係上供託有價證券ニ代用スルコトヲモ認メタイト存ズル次第デアリマス、宜シク御審議アラント希望致シマス

○荒川委員長 是ヨリ各條文ノ改正ヲ要スル主ナル點ニ付テ逐條御説明ヲ願ヒマス

○大久保政府委員 甚ダ勝手デゴザイ

マスガ、御手許ニ「貯蓄銀行法新舊條文對照表」ト云フノヲ差上ゲテゴザイマス積リデアリマス、之ニ改正ニナリマシタ所ダケヲ黒イ線ヲ引張ッテゴザイマス、大體ソレニ依ッテ御説明申上ゲタ方ガ便宜ト思ヒマノスデ御許ヲ願ヒタイト思ヒマス、主要ノ三點ニ付キマシテハ、只今小川政務次官カラ御説明ニナリマシタ通りデゴザイマス、貯蓄銀行法ハ大體ニ於テ現在ノ制度ヲ崩サナイデ行キタイト云フ趣旨デ、三點ノ改正ヲ加ヘマシタノデアリマス

其第一ハ第五條ノ六ニ載ッテ居リマス點デゴザイマス、先程小川政務次官カラ御説明ニナリマシタ通り、有價證券ノ割賦販賣ヲ認メルト云フ趣旨デゴザイマス、六ノ所ニハ「國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券ノ割賦販賣、此割賦販賣ハ今日有價證券割賦販賣法ト云フ法律ガゴザイマス、是ハ大正八年デゴザイマシタカ出來テ居リマス、其有價證券割賦販賣業ノ現狀ヲ觀テ見マス、頗ル振ヒマセヌノデアリマス、大正八年ニハ二十三、大正九年ニハ二十六、大正十年ニハ二十五、大正十一年ニハ二十四ト云フヤウナ工合デ、其後ハ低減シテ參ナリマス、昭和四年ハ八ト云フコトニハ九、昭和四年ハ八、斯ウ云フ風デ現

今ニ至ッテ居ルノデゴザイマス、是ハヤハリ貯蓄ト同ジ性質ノモノデゴザイマシテ、所謂證券ノ民衆化ト云フヤウナ意味ヲ以テマシテ、諸外國ニモ行ハレテ居ルノデゴザイマス、ソレデ曩ニ政府ニ於テハ有價證券ノ民衆化ヲ圖リマス爲ニ、有價證券割賦販賣法ヲ制定セラレテ居リマスケレドモ、其數ト云フモノハ頗ル振ヒマセヌ、現在ニ於テハ益々振ハナクナッテ來テ居リマス、ソレデ此振ハナイ原因ガ、ドウ云フ點ニアリマスカト云フコトヲ探究シテ見マス、大體ニ於キマシテ採算ガ取レナイト云フコトガ主要ニナッテ居リマシマス、有價證券ノ民衆化、殊ニ國債ノ民衆化ト云フコトハ非常ニ大切ナ事柄デハアリマスケレドモ、其趣旨ガ民衆ニ徹底シテ居リマセズ、隨テソレ等ヲ營業ト致シマスニハ、種々勸誘其他ノ宣傳ト云フヤウナコトニ金ガ掛リマシテ、募集其他ノコトニモ相當ナ施設ガ要ルサウデアリマス、而モ思ウヤウニ行カナイノデ、遂ニ引合ハナイト云フコトデ以テ、漸次斯ウ云フ風ニナッテ來テ居リマス、然ルニ貯蓄銀行ノ方ハ、御承知ノ通り零細ナ資金ヲ取扱ッテ居リマス、昨今ハ募集、其他ノ方法ニ於テモ餘程秩序アル、整頓セラレタル方法ニナッテ來テ居リマス、之ヲ貯蓄事業ト同時ニ併セテ行ヒマスレバ、要スル

ニ仕事ノ傍ラニ致シマス譯デアリマスカラ、是ハ經濟的ニ頗ル宜カラウ、大體ニ於テ目的モ似テ居ルコトデアリマス、結局スル所現金ヲ受取ルカ、國債ヲ受取ルカト云フダケノ差デゴザイマスカラ、斯ウ云フ風ナ方法ハ、貯蓄銀行ノ業務トシテハ最モ相應シイコトデアラウト云フノデ、追加致シタノデアリマス、勿論一般的ノ有價證券ト云フコトハ頗ル考物デアラウト思ヒマスカラ、其點ニ付テハ嚴ニ制限ヲ致シマシテ、國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リマスモノ、勸業債券ト云フ風ナモノニ之ヲ限定シマシテ、所謂投機トカ云フ風ナコトニ互ラヌヤウニ、嚴ニ慎ンダ次第デゴザイマス、其次ノ第七號ハ、要スルニソレノ追加デゴザイマシテ、既ニ第六號ニ於テサウ云フ風ナモノ、取扱ヲ許シマス以上ハ、其證券ノ募集、元利金ノ支拂ト云フ風ナ、關聯シタ仕事ヲサセテ行キタイト云フ趣旨ニ外ナラヌノデゴザイマス

其次ノ第九條ガ、先程御説明ニナリマシタル大藏省預金部ヘノ預ケ金ヲ以テ供託有價證券ニ代用サセルト云フコトヲ規定致シマシタノデアリマス、主務大臣ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ヘノ預ケ金ヲ以テ前項ノ供託ニ代フルコトヲ得「大藏省預金部ヘノ預ケ金ハ、國債ト變リマセヌコトデゴザイマス、既ニ其預ケ金ヲ許シテアリマス以上ハ、之ヲ供託有價證券ト同様ニ扱ッテヤラウト云フノデゴザイマス

ソレカラ第十條ハ、主トシテ現行法規ノ補充ト申シテ宜シイノデゴザイマス、現行法第十條ハ大略言ヒマス、預金者ノ爲ニ、貯蓄銀行ハ毎半期末ノ預テ居リマス金額ノ殘高ノ三分ノ一以上ヲ、原則トシテ國債證券ヲ以テ供託ヲシテ置ク、要スルニ預金者ノ保護ヲ其點ニ付テ完全ニスルト云フ制度ニナッテ居リマス、其供託物ニ付キマシテハ、預金者ハ優先シテ支拂ヲ受ケル權利ヲ有ッテ居リマス、ソレダケ預金者ノ方ニハ保護ヲ厚クシテアリマス制度デゴザイマス、今度ハ新ニ追加致シマシタ有價證券ノ割賦販賣ヲ致シマスカラ、其有價證券ノ割賦販賣ニ依ル債權者——掛込金者、其人達ニモヤハリ同ジク優先權ヲ認メルコトガ公平デゴザイマスカラ、其事ヲ追加致シマシタ次第デゴザイマス

其第二項ノ所ニ「前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受ケル範圍ハ預金額、給付金額又ハ給付ヲ受クヘキ有價證券ノ時價ヲ限度トス但シ給付金又ハ有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニシテ、給付金又ハ有價證券ノ給付時期到來セサルモノニ付テハ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トス」是ハ實際上ノ取扱ニ付キマシテ、現在ノ法律ノ趣旨ヲ解釋致シマ

ス上ニ、多少誤解デモ起ルコトガアッテハイカスト云フノデ、斯ウ云フ追加ヲ致シマシタノデアリマス、現在ノ取扱モ大體此趣旨デヤッテ居リマスノデスガ、此法ヲ執行シテ行キマス方面ノ側カラ、明ニ此趣旨ヲ規定シテ置イタガ宜イデヤナイカト云フ風ナ註文ガアリマシタ、預金額ニ付テハチャント定マッテ居リマスガ、定期積金トカ、或ハ今度有價證券ノ割賦販賣ヲ認メマス方面カラ見マス、掛込金ト云フノガアリマス、從前ノ書キ方デハ稍、其點ガ立法ノ趣旨其他ニ於テハ此通りデゴザイマスガ、適用ガ起ツタ場合ニ、誤解——デハナクテモ、適用ニ迷フコトガアリマスカラ、ソレ等ノ給付金トカ或ハ有價證券ノ給付ヲ受ケル債權トカ云フモノニ付テハ、期限ガ到來シナイモノニ付テハ拂込ミタル金額——掛込金額ヲ以テ其限度トスルト云フコトヲ明瞭ニ致シマシタニ過ギマセヌノデアリマス

次ニ第十一條ガ、今回ノ主ナル改正ノ第三點デゴザイマスガ、要スルニ貯蓄銀行ハ今日資金ノ運用方法ニ付テハ非常ニ制限セラレテ居リマス、其制限ヲ或ル點マデ緩和シテ貰ヒタイト云フコトハ、當業者ニ於テモ度々希望モ出テ居ル次第デゴザイマスガ、此程度ナラバ貯蓄銀行ノ本旨ヲ壞サズ、又實際ニ於テ危險モナク、又一面庶民金融ノ方ニ役立

ツデアラウト云フコト追加致シマシ
タ次第デゴザイマス、其第一ハ第六號
ニゴザイマス通りニ「第五條第六號ノ
規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ
債權者ニ對シ既ニ拂込ミタル賦拂金
ヲ限度トスル貸付」是ハ有價證券ノ給
付ヲ受ケル者ガ月々幾ラト云フモノヲ
掛ケテ參リマシテ、其掛ケタ金額ヲ限
度トシテ融通シテ貰ヒタイト云フノ
ハ、何モ危險ガアリマセヌカラ許シテ
ヤラウ、是ハ既ニ預金ヲ限度トシテ貸
ストカ、或ハ定期積金ノ場合ニモ同ジ
ヤウナ例ガアルノデゴザイマス

第七號ハ「道府縣市町村ニ對スル一年
内ノ貸付」是モ公共團體ニ對スル貸付
ハ別段弊害モナカラウ、併ナガラ貯蓄
銀行ノ性質カラ見マシテ、餘リ長イノ
ハ如何デアラウト云フコトデ、一年以
内ニ之ヲ限リマシタ次第デゴザイマス
第八號「割賦償還ノ方法ニ依ル二年内
ノ貸付」是ハ一般ノ庶民金融ノ目的ヲ
達スル趣旨デアリマス、二年以内ノ貸
付ハ出來マスガ之ニ付テハ——少シ條
ヲ飛ビマスケレドモ、便宜茲ニ附加ヘ
テ御説明申上ゲテ置キマス、第十三條
ノ所ニ「第十一條第一項第八號ノ規定ニ
依ル貸付金ノ總額ハ拂込資本金及準備
金ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス」ト規
定致シテ居リマス、要スルニ此無擔保貸
付ニ付キマシテハ、拂込資本金及準備

備金ノ五分ノ一ノ限度ニ止メサシテ置
ク、極ク安全ヲ期スル爲デアリマス
更ニ之ニ付テハ第十三條ニ一項ヲ加ヘ
マシテ「第十一條第一項第八號ノ規定
ニ依ル貸付金ハ二人ニ付千圓以下トシ且
確實ナル二人以上ノ保證アルコトヲ要
ス」ト致シマシタ、是ハ庶民金融ノ方
デ非常ニ實際上ハ希望セラレテ居ル點
デアリマスガ、併シ貯蓄銀行ノ方カラ
見マスレバ、餘程大事ヲ取ツテヤラナ
ケレバナリマセヌノデ、先程申上ゲマシ
タ拂込資本金及準備金ノ五分ノ一ト
シテ安全性ヲ取リマシタ外ニ、一人ニ
付テ千圓ヲ限度トシ、且ツ又二人以上
ノ確實ナル保證人ヲ附ケサセルコトニ
致シマス、之ヲ實驗ニ徵シマスト云フ
ト、案外斯ウ云フ庶民階級ニ對スル小
口ノ貸付ト云フモノハ、相當ノ成績ヲ
舉ゲテ居ル次第デアリマス、貯蓄銀行
デハアリマセヌガ、他ノ銀行ニ於テモ
此頃此趣旨デヤツテ居ル例モアリマス、
普通銀行等ニ於テモ、地方ニ依リマシ
テハ餘程是ガ能ク行ハレテ居ル例モゴ
ザイマス、無擔保デアアルカラト云フ風
ナ懸念ガ、案外ニ實際ニハ能ク行ハレ
テ居リマス、斯ウ云フ風ニ金額ヲ限定
シ、保證人ヲ選バセ、且ツ又總高ニ於
テモ拂込資本金及準備金ノ五分ノ一
ヲ限度トシテ始メマシタナラバ、左シ
タル危險ハナカラウト云フコトデ、時

勢ノ要求モ緩和シタイト云フ趣旨デ、
此規定ガ出來タ次第デゴザイマス
其次ニハ第九號「銀行若ハ大藏省預金
部ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金」是ハ郵便
貯金及ビ銀行ヘノ預ケ金ハ、現行法デ
認メテ居リマス、先程申シタヤウニ大
藏省預金部ヘノ預ケ金ヲ此際認メル、
是ハ供託ノ代リニナル譯デアリマス
第十號ハ「主務大臣ノ定ムル所ニ依リ
信託會社ヘ爲ス金錢又ハ有價證券ノ信
託」是モ此信託會社ノ發達ニ伴ヒマシ
テ銀行ト擇ブ所ナキ狀態ニ信託會社モ
進ンデ來テ居リマスカラ、此場合金錢
信託又ハ有價證券信託ノ適用ノ途ヲ開
イテヤラウト云フ趣旨デアリマス
第十一號ハ「銀行又ハ信託會社ノ引受
アル手形ノ買入」從前ハ斯ウ云フ場合
ハ許シテ居リマシタガ、是モ前申ス通
リ信託會社モ、今日ハ敢テ銀行ト遜色
ナイモノモ澤山デゴザイマスカラシ
テ、是等モ付加ヘタ次第デアリマス
第十三條ハ大體ニ於テ前申シタコトデ
盡キテ居ルト思ヒマスノデ、是ハ略シ
マス

第十四條モ殆ド條文ノ整理デゴザイマ
ス、其第十四條ノ末項ハ「一信託會社
ニ對スル信託財產及其ノ信託會社ノ引
受ケタル手形ノ買入高ノ總額ニ付之ヲ
準用ス」ト申シタノハ、是ハ銀行ニ付
テ規定ガアリマス、相手銀行ニ對スル

預金、信託會社ノ場合デアレバ、信託
會社ニ對シテノ金錢信託ト云フヤウナ
モノモ、餘リ額ガ多クナツテ居ルト、貯
蓄銀行ノ本質上ドウカト云フノデ、從
前雙方面カラシテ制限ガアリマス、詰
リ之ヲ銀行ニ預入レマス、貯蓄銀行ノ
側カラ申シマスルト云フト、第十四條
ノ前ノ方ニ書イテアルコトデアリマス
ガ、總テノ預入金ノ十分ノ一ヲ限度ト
サレテ居リマス、預カッタモノヲ全部
一ツノ銀行ニ預ケルト云フコトハナイ
ヤウニ、最高限ヲ十分ノ一ニ限ツテ居
リマス、ソレカラ又預カル側カラ申シ
マスルト、同ジ項ニゴザイマスガ、其
四分ノ一ト云フ風ニ、詰リ預カル方ノ
銀行カラ見マスレバ、拂込資本金及ビ
準備金ノ四分ノ一、餘リ多クノモノハ
預カラヌヤウニト、雙方面カラ此安全
性ヲ規定シテゴザイマス、此安全性ハ
信託會社ノ場合ニモ同ジク行ツテ置カ
ナケレバナラヌト云フ趣旨デ、信託會
社ノ方ニ追加シテゴザイマス

第十五條ハ條文ノ整理デアリマス
第十七條ハ「有價證券割賦販賣業法ハ
第一條及第八條乃至第十一條ノ規定ニ
限リ貯蓄銀行ニシテ第五條第六號ノ業
務ヲ營ム者ニ之ヲ適用ス」即チ有價證
券割賦販賣業ヲ傍ラ營マセルコトニナ
リマスカラシテ、此法律ノ中ニ、細カ
ニ書クモノデアリマスガ、其貯蓄銀行

ガ行ヒマスル有價證券割賦販賣ノ規定
ガ出來テ居リマスカラ、其貯蓄銀行ガ
行ヒマス必要ナル條項ヲ茲ニ引用致シ
タ次第デアリマス、其主ナル條項ヲ簡
單ニ御説明申上ゲマスレバ、第一ハ、

有價證券割賦販賣トハ如何ナルモノデ
アルカト云フ定義ヲ規定シテ居リマス
條文デアリマシテ、貯蓄銀行ニ有價證
券ノ割賦販賣ヲ營マセル以上ハ當然其

定義ニ依ッテ營マシムルコトガ必要ダ
ト思フ次第デゴザイマス、其次ノ第八
條乃至第十一條ノ規定ハ、買入契約者
ガ不拂金拂込ミノ義務ヲ履行シナイ場
合ニ、營業者ガ無理ニ契約ノ解除ヲ行

使シテハ、買入契約者ノ利益ヲ害スル
事ガナイトモ限リマセヌカラ、斯ノ如
キ場合ニハ、先ヅ催告シテ不拂金拂込
ノ督促ヲ爲スコト、シ、尙ホ拂込マナ

クテ、而モ延滞ガ二回以上デ、其延滞
金額ガ代金ノ十分ノ一以上ニ達シタル
時ハ契約ヲ解除シテモ宜イ、要スルニ

契約者ヲ保護シタ規定デアリマス、而
シテ契約ヲ解除シタル時ハ、直チニ原
狀ニ回復スルコトヲ要ス、是等ノ手續

ヲ履マヌ時ハ、其解除ハ無効デアルト
云フコトノ規定デアリマシテ、有價證
券割賦販賣ノ際ニ、細民階級ヲ保護ス

ルト云フ規定ニナッテ居リマス、斯ル
規定ハ、貯蓄銀行ノ行ヒマス場合ニモ
同様デアラウト思ヒマスカラ、サウ云

フ風ナ點ヲ適用スルコトニ致シマシタ
次第デアリマスガ、其他ハ特ニ申上ゲ
ル程ノモノハナクテ單純ナ條文ノ整理
デゴザイマス

○荒川委員長 本案ニ對スル質疑ハア
リマセヌカ

○篠原委員 割賦販賣ノ時ノ販賣契約
ヲ取消シマシタ場合ニ、返還ハ幾ラノ
金ヲドウ云フ限度ニ返還スカ、之ニ付

テ何カ準則ガアリマスカ
○大久保政府委員 只今篠原君ノ御質
問ノヤウナ場合ハ、總テ大藏省ニ對シ

マシテ契約約款ト云フモノヲ出サセテ
居リマス、其契約約款ニ、第一回ノ金
ダケハ、斯ウ云フ風ナ場合ニハ募集費

其他ノ費用トシテ頂戴スルト云フコト
ニ大體キマッテ居リマス、其點ハ、所謂
銀行側ハ契約ノ爲ニ色々ナ費用モ投ジ

テ居リマスカラ、ソレノ償フ程度ノモ
ノハ、無闇ニ解約致シマシタ時ニハ、
ソレダケヲ取ルコトヲ準則デキメテ取

締ッテ居リマス
○篠原委員 其準則ト云フノハ、第一
回ノ拂込金ハ代金ノドノ位ニ當ッテ居

ヒマス、假リニ十回ナラバ十回、十二
回ナラバ十二回掛ケテ、契約ヲ解クト
云フ場合ニ對シテハ、第一回ニ掛ケタ

分、即チ十分ノ一或ハ十二分ノ一取ル
ガ、サウ云フ額ヲ取上ゲテシマウ程經

費ガ掛ルノデアリマスカ
○大久保政府委員 先程モ一寸申上ゲ
マシタ通り、此有價證券割賦販賣ノ仕事

ニハ、可ナリ金ガ掛ル、ソレガ今日此
業ノ成立ッテ行カナイ主ナ原因デアリ
マス、ソレヲ點ニ付キマシテハ、今

後併營業務トシテヤッテ行ク場合ニハ、
餘程改良セラレルト思ヒマスガ、現在
ノ狀態デハ可ナリ費用ガ掛ルヤウデア

リマス、ソレデ大體ニ於テ今ノ制度ハ
已ムヲ得ナイト云フコトデアリマス、
今日ノ所デハ一回分即チ十分ノ一程度

ヲ認メテ居ルノデアリマス
○篠原委員 此業態ガ進步シテ、盛ン
ニナッテ來ナイノハ、業者ガ不信用デア

ルノモ一原因デアラウト思ヒマス、業
者ガ是等ノ知識ノ無イ人ヲ勧誘シテ、
加入シテモ、一遍掛ケテ大抵ハ懲リル、

ニ懲リルダラウト思フ
○大久保政府委員 只今ノ御意見ハ洵
ニ御尤ノ御意見デ、吾々モ其點ヲ非常

ニ心配致シテ居リマス次第デ、其業者
自身ガ信用ガアリ、非常ニ仕事ガ伸ビ

テ行クト云フコトデアリマス、漸次
經費モ減ッテ行クコトデアラウト思フノ
デアリマス、御參考マデニ、今日マデ

ノ割賦販賣業ノハツノモノニ付キマシ
テ、大體ノ御説明ヲシテ置キマスレバ、
自然御諒解ガ願ハレルカト思フノデア

リマス、ハツノモノデ公稱資本金ガ漸ク
百四十五萬圓、其拂込資本金ガ六七
萬六千圓、今日扱ッテ居リマスル金額ト

云フモノ、「バランズ」ト云フモノヲ
此處ニ擧ゲテ見マスト云フト、引替ノ
有價證券ハ僅ニ全體ヲ通ジテ三十五萬

圓ト云フヤウナ有様デゴザイマス、斯
ウ云フヤウナ實情デアリマスルカラ、
非常ニ經費ガ掛ルモノデアルト云フコ

トハ自然御諒解ガ行クト思ヒマス、併
シ是カラ先キズン、斯ウ云フモノハ
大キナモノガ傍ニヤッテ行クト云フコ

トニナルト、漸次今御話ノヤウニ信用
ヲ得テ行クト云フ點ニ於キマシテ、サ
ウ云フ點ニ付テハ頗ル經濟的ニ行クカ

ト思ヒマス
○篠原委員 銀行ガヤル場合ニモ、募

集人ヲヤルノデアリマセウカ、實際募
集ノ狀態ト云フモノヲ聽イテ見マスト

云フト、詐欺ニ等シイト思フノデス、多クハ各個人々々ノ家庭ニ行ッテ、アナタノ所ノ勸業債券ハ當ッテハ居リハシマセヌカナド、言フ、サウスルト現在ハドンナ家庭デモ勸業債券ノ一枚ヤ二枚持タヌヤウナ者ハ一人モナイ、吾々預金部カラ押付ケラレタヤウナモノハ例外デスガ、必ズ三枚ヤ五枚、多イ人ハ二十枚モ三十枚モ持ッテ居ル、サウシテドレガ抽籤ニ依ッテ當籤シテ居ルカ、ドレガ利子ガ完全ニ入ッテ居ルカナドト云フコトニ付テハ、多ク主人ガ當ニシナイモノダカラ、子供ガヤルトカ女房ガヤルトカシテ居ルカラ、能ク分ラヌ、ソレデ偶、サウ云フ専門ノ業者ガ番號ヲ控ヘテ行ッテ見ルト云フト、其中ニ三圓當ッテ居ルトカ、五圓當ッテ居ルト云フヤウナコトガアルト、ソレヲ非常ニ好機ナリトシテ、斯ウ云フ債券ヲモウ一遍御買ヒニナッタラドウデスカト斯ウ云フコトヲ言フ、サウスルト大抵ノ人ガ之ニ應ジテ、月々ニ掛ケル、掛ケルト云フト金ダケ取ッテ、一年モ二年モ經タナケレバ債券ヲ寄越サナイ、其利廻リト云フモノヲ、吾々ガ素人式ニ極ク目ノ子算デヤッテ見テモ、預金ニ比シテ、殆ド利子ガ附カナイト言ッテモ宜イ程度ノモノデス、大體此勸業債券トカ、復興債券トカ、普通ノ社債ノ利子ト云フモノハ「デイスカウント」

サレテ、額面ヨリ皆低イ、額面ヨリ利子歩合ヲ皆引イテ計算スル、ソレヲ今ノヤウナ募集ノヤリ方ヲスル、其ヤリ方自身ガ非常ニ不誠實デス、監督ヲナサルニ付テハ、恐ラクドウ云フ利附證券デ、ドウ云フ「ヴァリユー」デ、何箇月ニ買フト云フヤウナ、利子ノ方ノ御監督モナサレルノデアリマセウガ、實際ヲ見ルト殆ド全部詐欺ニ等シイヤウナヤリ方ヲスルノデス、何誰カ監督官ノ御方ガ割賦販賣會社ヘ、監督官デナイヤウナ顔ヲシテイラシッテ見ルト分リマス、私共見物シテ驚イタ、大抵職工ノオ内儀サントカ、労働者ノオ内儀サントカ云フヤウナ者デ、殆ド之ヲ繼續スルコトガ出來ナイト云フコトニナルト、全部第一回ノ分ハ沒收、斯ウ云フトコトニナルノデ、ドウモ將來トシテモ發展スル餘地ガナイヤウニ思フノデカス、貯蓄銀行ガヤリマシタ場合ニモ、今マデノ割賦販賣業者ガヤッテ居ルヤウナ方法デヤルノデハ、私ハ、十圓ヅツ十箇月貯金シテ、最後ニ百圓ノ滿鐵ノ債券ヲ買フトカ何トカ云フ方ガ、マダ非常ニ有利ダト思フノデス、而モ其「フエース・ヴァリユー」トノ間ノ鞘ダケハ、完全ニコチラニ來ル、而シテ其債券ニ利子ガ附イテ居ルカラシテ、貯金ヲシテ居ッタ利子ト、債券ノ利子ト、及ビ其額面ノ鞘ダケハ儲カル、斯ウ云フ

コトニナルノデアリマス、割賦販賣ノ方デ行クト、恐ラク今マデノ市場ニ行ハレテ居ル割賦販賣ニ對スル惡イ影響ト云フモノハ、皆サンノ耳ニハイッテ居ルト思フ、ソレニ斯ウ云フコトハ、餘リ上流ノ家庭ノ人ハソレヲヤッテ居ナイ、大抵餘リ智識ノ高クナイ者ナドガヤッテ居ルノデアリマスガ、今度貯蓄銀行ガ折角ヤッテモ、今マデノヤウナヤリ方ダト評判ガ惡クナル、サウナルト又銀行ノ方ニ御迷惑ニナリハシナイカト考ヘマスノデ、私ハ今マデノ割賦販賣ノ實情ヲ御參考マデニ申上ゲテ御意見ヲ伺ヒマス

○大久保政府委員 非常ニ參考ニナリマス御説ヲ承リマシタノデスカラ、成ベクサウ云フヤウナコトハ、今後ハ貯蓄銀行ノ場合ニハ防ギタイ趣旨デ以テ之ヲ拵ヘマシタ次第デゴザイマス、有價證券ノ販賣ハ、先程カラ説明致シマシタ通り洵ニ不振デアリマス、數カラ行キマシテモ、額カラ申シマシテモ、今ノ御話ノヤウナ事柄ガ餘程影響シテ居ルコトダラウト思フノデアリマス、ノミナラズ無免許ノ者モ幾分アリマシテ、餘程是ハ警察其他ノ方ニ於テ、度々此停止ヤ何カラ致シテ居ルヤウナ次第デアリマス、併シ今後ハソレヲ信用アル貯蓄銀行ガ行フト云フヤウナコトニ付テハ、考ヲ持ッテ居ルコトモゴザイマス、ソレ等ノ方ハ漸次馴レテ居ル方法ニ依ッテ、今ノ御話ノヤウナ條件ト大體似寄ッタヤウナ方法ニ於テ、掛金者ノ方ニ有利ニナルヤウナ考ヲ持ッテ居ルヤウデゴザイマスカラ、漸次是カラモ發展サセルヤウニ致シマシテ、今日御舉ゲニナッタヤウナ傾向ガ、ドウモ私等モアルト云フヤウニ思フノデ、是非一ツ此風習ヲ改善シテ行キタイト云フ考デ、旁々此案ヲ出シマシタ次第デゴザイマス

○大崎委員 私モ一二項一寸御尋シテ見タイト思ヒマス、此國債若ハ地方債ノ割賦販賣ヲ貯蓄銀行ニ御許シニナルト云フコトデアリマスルガ、政府ガ本法ヲ御制定ニナッタ御趣旨ガ何處ニアルカ、詰リ銀行業者カラ斯様ナコトヲ請求シテ來テ、貯蓄銀行業者ト云フモノガドウモ營業不振デ、成立ッテ行カナイカラ、斯ウ云フコトヲシナケレバナラヌト、斯ウ云フヤウナ趣旨デアルカ、或ハ又一般ノ者ニ債券ヤ國債ヲ行渡ラセラルガ爲ニ、政府自ラ御立案ニナッタモノデアルカドウカト云フコトヲ御説明願ヒタイ、ソレカラ只今政府委員ノ御説明ニ依リマスルト云フト、有價證券ノ割賦販賣ノ方法ガ大正八年ニ制定ニナッテ、二十幾ツアッタノガハツニナッテ居ルト云フコトヲ御説明ニナッテ居リマス、サウシテ此狀態ガ如何ニモ不振デ

到底割賦販賣ハ營業ガ成立ツテ行カヌ、已ムヲ得ナイカラ之ニヤラセルト云フヤウナコトヲ先程御説明ニナリマシタガ、私はハ大變相違シテ居ル御辯明デハナカラウカト思フ、私共ノ知ツテ居ル人ナドモ澤山アリマスガ、國債殊ニ勸業債券ノ割賦販賣ナドヲシタイト言ツテモ、中々政府デハ許可シナイ方針デハナカラウカト私ハ思ツテ居ル、民間ノ者デソレヲヤリタイト云フコトデ出願シテモ、身分ガドウデアルトカ斯ウデアルトカ、中々ヤカマシイコトヲ言ツテ許可シナイ、是ハ私ハ許可シナイ御方針ノヤウニ承ツテ居リマスガ、事實不振ノ爲ニ出來ナイノカ、或ハモウ政府デハ出願シテモ斯ウ云ウヤウナ御方針ノ下ニ、既設會社ヲ皆潰シテシマウト云フ御方針ノ下ニ、斯ウ云フ風ニヤルノカドウカ、之ヲ承リタイ、ソレデ銀行ニ此事ヲヤラセルコトニナリマスト、現在八個ニナツテ居ルサウデアリマスガ、此八個ノ會社ハ、是ガ爲ニ非常ナ影響ヲ受ケル、貯蓄銀行ガ之ヲヤルコトニナレバ、此八個ノ會社ト云フモノハ——勿論勸業銀行デ御ヤリニナツテ居リマス會社ハ特別デアリマセウケレドモ、其他ノ會社ハ殆ド全部潰レテシマハナケレバナラヌモノト私ハ思フガ、一方サウ云フヤウニ損害ヲ受ケルモノガアツテモ、政府ハサウ云フ御方針

ヲ採ルカドウカト云フコトモ承ツテ置キタイ、又其他ノ點ニ於テモ、此事業ニ付テハ政府ノ方ト吾々トハ意見ヲ異ニシテ居リマスガ、總テノ事業ト云フモノハ、成ベク國民全般ニ、自由競争ニシテヤラセルコトガ宜シイト思フ、現在失業者ガドン／＼アツテ、何等ノ職業モナクテ困ツテ居ルト云フ状態ハ私ガ申上ゲルマデモナクアルノデアリマスカラ、種々ナル制限ヲ加ヘテ、サウシテ是等ノ國債賣買ト云フヤウナ商賣モ、現在相當ニヤツテ居ル、貯蓄銀行ト云フヤウナモノノミニヤラセル必要ハナカラウト思フ、國民全體ガ働カナケレバ、國家ノ機能ハ動イテ行カナイノデアル、ソレデドウモ此コトニシテモ、現政府ノ御方ハ、兎角資本財閥ニ總テノコトヲ偏重サセテシマツテ、何デモ銀行トカ何トカ云フヤウナモノニ事業ヲヤラセサヘスレバ、事業ハ完全ニ行クト云フヤウナ考デ、一般ノ者ノ事業ヲ段々奪ツテシマウ、ソレデハ仕方ガナイ、終ニハ金ヲ澤山持つテ居ル人ノ社會ト、勞働者失業者ノ社會ト、此二ツノ社會ニナツテシマウ、産業ニ從事スル者ハ、何ニ從事シテモ儲カラナイカラト云フヤウナコトデ、是ガ爲ニ産業ハ段々不振ニナリ、金ハ大銀行、貯蓄銀行デ取扱フト云フコトニナツテ、此處ニ死藏シテシマウカラ、玆ニ社會ノ不景氣

ガ來ルノデアリマス、斯ウ云フヤウニシテ、段々ト資本財閥ニ偏重シテ行クト云フヤウナコトハ、私共ハ最モイケンイコト、思ツテ居リマスガ、其點ニ對スル政府ノ御考ハ何何デアリマスカ、ソレカラ又第九條ニ行キマシテ、預金部ノ預金ヲ供託金ニ代ヘルト云フヤウナコトニナツテ居リマス、殊ニ其受入レノ金額ハ、毎半期ノ末日ノ現在ニ於テ之ヲ定メルト云フヤウナコトニナツテ居リマスガ、是モ私ハ今現行法ヲドウ斯ウト言フ譯デハアリマセヌガ、若シサウ云フコトニナレバ弊害ガ起ルノデハナイカト思フ、詰リ毎半期ノ末日現在ト云フノデアリマスカラ、其時ニ澤山預金部ニ金ヲ預ケテ置イテ、後デ其預金ヲ引出シテシマツテ、殆ド供託金ガナイヤウニナルト云フヤウナ弊害ガ起ルノデハナイカト思ヒマスガ、サウ云フコトガ出來ナイヤウナ方法ガナケレバナラナイト思ヒマスガ、其點ニ付テモ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○大久保政府委員 私只今ノ御質問ハ四ツアツタヤウニ思ヒマス、第一ハ有價證券割賦販賣ヲ營ムニ付テハ、ドウ云フ理由デアッタカト云フヤウナ御趣意ノヤウデアリマス、是ハ先程申上ゲマシタヤウニ、割賦販賣ハ庶民階級ノ貯蓄ノ方法ト致シマシテハ、制度其モノハ極メテ適切ナモノデアラウト云フ考ヲ吾々ハ持つテ居リマス、ソレデ元來此割賦販賣ト云フ制度ハ、其遣方ガ所謂貯蓄銀行ノ定期積金ト云フノト殆ド同ジデアリマス、ソレデ此頃ハ貯蓄銀行ガ定期積金ト云フモノヲ主トシテヤツテ居リマス關係上、彼是權衡上ノ工合ニ於テ是ハ大變相應ハシイト云フ趣旨カラ、貯蓄銀行ノ仕事ニ之ヲ認メタト云フ趣旨デゴザイマス、其次ニ第二ニ、然ラバ現在ノ割賦販賣業者ニ影響ヲ與ヘルデハナイガラウカ、斯ウ云フ風ナ御質問ダッタト思フノデアリマス、ソレハ吾々ハ左様ニハ考ヘマセヌ、先程是ハ他ノ方面カラ御質問ガゴザイマシテ御答致シマシタ通り、此業態自身ニ付キマシテ、中々世間ノ信用ヲ得テ居ラヌノデアリマス、將來間違ヒガナイ、好ク行クト云フ風ニ馴致シテ行キマシタナラバ、無論貯蓄銀行ガ、此際一齊ニ仕事ヲ始メルト云フ次第デモゴザイマセヌコトデ、是ハ極メテ徐々ニ行クモノト吾々ハ考ヘテ居リマス次第デアリマスカラ、サウ云フ風ナ工合ニシテ、世間ノ印象ヲ好ク致シテ行キマシタナラバ、此業態ニ付テノ信用モ漸次回復サレ、世間ノ人ノ迷惑モ改マリマシテ、追々ソレ等ノ業者ニハ、好影響ヲ與ヘルデアラウト斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス次第デアリマス、ソレカラ第三ニ、現在ノ遣方ハ割賦販賣

ノ業ヲ希望シテ居ル者ガアツテモ、當局
デハ抑ヘテ居ル、斯ウ云フ風ナ仕事ハ自
由ニサセテ置イタラ宜イデハナイカ、
抑ヘルカラ却テイカヌノデ、決シテ希
望者ガ少ナイノデハナイ、或ハ隨分民
間ニヤラシテ置イタラ發達スルダラ
ウ、ト云フ風ナ御趣旨ノ御質問ト諒解
致シマシタガ、今日マデノ所デハ、先
程カラ申シマシタ通り、相當長イ間ヤ
リマシテ、地盤ヲ持ッテ居ッタ人間デアッ
テモ、中々成功致シマセヌト云フコト
ハ、先程ノ例デ申上ゲマシタヤウナ次
第デ、今日サウ云フ種類ノ割賦販賣ヲ
ヤリタイト云ッテ出願シテ居ル者ハ最
近ニハゴザイマセヌノデアリマス、偶
希望者ガアルヤウニ承ルノデアリマ
スケレドモ、ソレ等ハ皆株式ノ割賦販
賣ヲヤリタイト云フノガ主デアリマシ
テ、吾々ガ茲ニ考ヘテ居リマスヤウナ
趣旨トハ違ヒマスヤウデアリマス、ソ
レデサウ云フ風ナモノハ、決シテ吾々
ハ貯蓄ノ一端ダト云フ意味ニハ解釋致
シマセヌ、大體サウ云フ風ナ趣旨ノモ
ノハ、餘リ今日デハ希望者ト云フモノ
ハ出テ居リマセヌ次第デアリマス、無
論茲ニ眞面目ナ業者ガアリマシテ、サ
ウ云フ風ナモノヲ希望シタ場合ニハ、
吾々ハ相當詮議スルコトハ勿論ノ議デ
ゴザイマス、唯全般ニ、斯ウ云フ風ナ
モノハ自由營業ニシタラドウカト云フ

ヤウナコトニ對シマシテハ、吾々ハ多
少見解ガ違ヒマス、銀行其他信用機關
ハ、大體ニ於テ是ハ免許事業ト云フコ
トニナッテ居リマス事デアリマスカラ、
今日之ヲ自由放任ノ事業ニシヨウト云
フヤウナ考ハアリマセヌ、第四ニ供託
ノ點ニ付テ、毎半期末デハ危險ガナイ
カト云フ風ナ御心配デアッタと思フノ
デアリマスガ、今日マデノ所ハ、普通
其日々々ノモノデ以テ供託サセレバ、
是ガ最モ精確ナ方法デゴザイマスガ、
併ナガラヤハリ其日々々デ供託シテ行
ク手續ハ洵ニ煩瑣デゴザイマス、大體
ノ監督ノ上カラ見マシテモ、今日マデ
ノ所長イ間ノ經驗上、是ハ前ノ貯蓄銀
行條例ヲヤッテ居ッタ時代カラゴザイマ
スガ、此方法ヲヤッテ來マシテ、サシタ
ル弊害ヲ認メテ居リマセヌ、今度ノ法
律モ別段此點ニ付テハ改正ヲ加ヘル意
思ハゴザイマセヌ次第デアリマス

○石崎委員 私モ一言伺ッテ見タイト
思ヒマス、先程カラ政府當局ノ御説明
モアリマシテ伺ッテ居リマス、所ガ貯蓄
銀行ノ不振ト云フコトガ洵ニ遺憾千萬
デアル、此不振ノ原因ハ色々アリマセ
ウガ、私ガ見ル所デハ、近年都鄙ヲ問ハ
ズ、信用組合ノ事業ガ甚ダシク發達シ
テ居ルヤウニ見受ケマス、此信用組合
ノ發達ノ爲ニ、貯蓄銀行ノ不振ヲ招イ
テ居ル、御案内ノ如ク都市ハ勿論相當

ノ町デモ、信用組合ガ一方ニ於テ貯蓄
的ノ獎勵ヲドシ、ヤッテ居リマス、ソ
コデ私ガ先日來當局ニ伺ッテ見マシタ
ヤウニ、餘リ經濟金融ノ狀態ガ都市ニ
集ル傾向ガアリマスノデ、之ヲ圓滑ニ
スルニハ、ヤハリ斯ウ云フモノヲ貯蓄銀
行同様ニ、相當ナ位置ニ在ル信用組合
ニハ扱ハセルヤウニスルコトモ一ツノ
方法デハナイカト云フ感ジモ致シマ
ス、其邊ニ付テノ政府ノ御腹案ハ如何
デアリマセウカ

○大久保政府委員 石崎サンノ御質問
ニ御答申上ゲマス、私ノ申シ方ガ惡ウ
ゴザイマシタ爲ニ、貯蓄銀行ガ不振デ
アルト云フ御趣旨ト伺ヒマシタガ、私
ハサウ云フ意味デ申シタノデアリマ
セヌ、若シサウ云フ印象ヲ御與ヘシマ
シタナラバ取消致シマス、貯蓄銀行ハ
最近益々基礎ヲ鞏固ニ致シマシテ、コ
コ數年來ノ發達ハ洵ニ著シイモノガゴ
ザイマス、先程カラ不振ト申シマシタ
コトハ、有價證券割賦販賣業ノコトヲ
申シテ居リマスノデ、貯蓄銀行ノ方ハ、
大體ニ於テ最近十箇年ノ數字ヲ取ッテ
居リマスガ、預金ナドモ此不景氣ニ拘
ラズ増加シテ居リマシテ、今日デハ十
五億ヲ超エテ居ル次第デアリマス、
年々貯蓄銀行ハ殖エテ居リマスシ、基
礎モ益々確實ニナッテ居ル次第デアリマ
ス、其趣旨ニ御諒承ヲ願ヒマス

○石崎委員 私ノ質問シマシタノガ間
違ッテ居リマシタガ、所謂割賦業ノ方
ト信用組合トノ關係ハ如何デアリマス
カ

○大久保政府委員 石崎サンノ御質問
ガ信用組合ニ割賦販賣ヲ認メテヤッテ
宜イデハナイカト云フ御趣旨デアリマ
スレバ、實ハ信用組合ノ方ハ、大體農
林省所管ニナッテ居リマス、大正六年
デシタカ、勅令ガ出テ居リマシテ、信
用組合中所謂市街地信用組合ト云フモ
ノガゴザイマスガ、全國デ信用組合ノ
數ハ今一萬二千ヲ超エテ居ルカト思ヒ
マススケレドモ、其中市街地信用組合ト
云フモノガ大體二百八十バカリデアッ
タト記憶シテ居リマス、ソレダケニ付
テ大藏省ノ方ハ監督權ヲ有ッテ居ル次
第デアリマスカラ、ソレハ全國一萬二
千ノ信用組合ニ比シマシテハ極ク微々
タルモノデアリマス、全體ニ付テハ農
林省所管ト云フコトニナッテ居ル次第
デアリマスガ、吾々今日茲ニ提案致シ
マシタ通り、貯蓄銀行ノ範圍内ニ於キ
マシテ、此業務ガ適當デアラウト思フ
次第デアリマス、尙ホ足ラナイ點ハ政
務次官ノ方カラ申上ゲルデアラウト思
ヒマス

○小川政府委員 信用組合ノコトニ付
キマシテハ、實ハ只今農林省トモ共ニ
研究ヲシテ居リマスノデ、信用組合ノ

現狀ニ付キマシテハ、尙ホ之ヲ改善シテ行カウト云フコトモ考ヘテ居リマス、隨テ何レ研究ノ結果何カ提案スル時期ガアルカモ知レマセヌガ、今ノ所信用組合ニ割賦販賣業ヲ營マシムルト云フヤウナコトハ考ヘテ居リマセヌ

○荒川委員長　貯蓄銀行法改正案ニ付キマシテハ外ニ御質疑モナイヤウデアリマスカラ、此程度ニ止メマシテ、曩ニ申シマシタ委員外ノ植原悦二郎君ヨリ抵當證券法案ニ付テ質疑ヲ致シタイト云フコトデアリマス、之ヲ許シマス、委員諸君ノ御諒承ヲ乞ヒマス

カ御尋致シタイト思ヒマス

○小川政府委員 私ノ御答致シマスコトハ、政府ヲ代表シテ居ル積リデアリマスガ、アナタノ御質問ガドウ云フコトデアルカ、大臣デナケレバ御答辯ノ出來ナイヤウナ事デアルカ能ク分リマセヌガ、大抵私ノ答ヘルコトハ政府ノ考ヘテ居ルコト、御諒承下サツテ宜シウゴザイマス

○植原悦二郎君 小川政務次官デ結構御答ノ出來ルコトデアリマスカラ、政府ヲ代表シテ居ルト云フ御積リデハナク、明瞭ニ全責任ヲ以テ答辯ヲ致スト

ダケニシテ戴キタイト思ヒマス

○小川政府委員 緊縮政策トカ、消費節約トカ云フヤウナコトハ、是ハ本會議ニ於キマシテモ、豫算總會ニ於キマシテモ、度々論議サレテ、度々大藏大臣ガ御答ニナツテ居リマスカラ、其趣旨ニ依テ御了解ヲ願ヒタイト思ヒマス、此處デサウ云フ問題ヲ繰返シテ論議サレマシテハ際限ガナイコトニナリマス

○植原悦二郎君 此處デ繰返ス譯デハアリマセヌ、唯私ノ質問ノ要旨ヲ明瞭ニスル爲ニ其點ヲ確メテ置イテ質問ヲ致ス譯デアリマス、ソコデ此抵當證券

地、借地法施行地、縣廳所在地、即チ浦和町ト云フヤウナ所ニ限ッテ行フト云フコトニナリマシテ、今植原君ノ述ベラレマシタ數字デアリマスガ、其數字ガドレ位當籍リマスカ、先ヅソコノ見當ハ付キ兼ネルト思ヒマス、ドレダケノ融通額ニ抵當證券ガ發行サレマスカ、隨ッテドレダケノ今日マデノ不動產ガ資金化スルカ、其ノ事ハ植原君ノ申サレタヤウナ數字ニビタツト籍ルト云フヤウナコトハ申上ゲ兼ネマス

○植原悦二郎君 私ハ敢テ正確ナコトヲ申スノデハアリマセヌガ、大體只

○植原悦二郎君 若シ此委員會ノ速記
録全部ガ出來テ居リマシタナラバ、敢
テ御尋ヲシナクテモ宜イコトカモ知レ

ノ言質ヲ與ヘテ戴キタイノデアリマス
○小川政府委員 ソレデ宜シウゴザイ
マス

法ハ、是ガ兩院ヲ通過致シマスレバ、七月カラ實施サレルコト、了解致シテ居リマス、而モ此法案ガ通過致シマス

今地方勸業各銀行ヲ通ジテ、不動産デ
借リテ居ルモノハ六十二三億ト睨ンデ
居リマス、其中デ十二億ハ御承知ノ通

マセヌガ、本委員會ノ經過ヲ見テ居リ
マシテ、一二點是非確メテ置カナケレ
バナラヌモノガアリマスノデ委員外ト

○植原悦二郎君 第一ニ御尋シテ置キ
タイノハ現政府ハ依然トシテ緊縮政
策——消費節約ヲ國民ニ求ムル政

レバ、先ヅ大體ニ於テソレガ實現サレ
ルカサレナイカハ兎ニ角トシテ、此法
律ノ目的トスル所ハ、少クモ二十四五

リ、是ハサウ抵當證券化セナイ部分ト
思フ、其約半額ハ地方的ノモノト大睨
ミデアリマス、ダカラシテ約二十四五

シテ質問ノ御許ヲ願フタ譯デアリマス。
第一ニ是ハ、白イ物ヲ白イカドウカト
聞クヤウナ質問デアリマスガ御答ヲ
願ヒタイ、何時デモ國務大臣デナケレ
バ政府ヲ代表シテ居ル者ノヤウニ思ハ
レナイノガ日本議會ノ癖デアリマス。

策——失業公債ニ付テハ一時的デア
テ、非募債主義ダト言ッテ御出デニナ
リマスガ、此聲明ヲ依然トシテ嚴守シ
テ御出デニナルモノト諒解シテ宜シウ
ゴザイマスカ、此點ニ對スル御答辯ヲ
願ヒタイ

億ノ不動産、之ニ對シテ金融ノ圓滑ナル方法ヲ講ゼシメヨウト云フ御趣旨ニ依ツテ之ヲ御定メニナッタモノデアルト思ヒマスガ、其點ハ間違アリマセヌカドウカ

○小川政府委員　此抵當證券法が實施

億ハ大綱ミノモノデ、サウシテ其問題
ニ付テ細カシイコトヲ申スノデヤナイ
ガ、大體二十四五億ノ不動産ニ對シテ
此法律ガ適用サレベキモノデアルト云
フ御見込ノ下ニ、此法律ヲ御提出ニナッ
タモノデアルカドウカト、斯ウ云フコ

ガ、私ハ政務次官デモ政府ヲ代表シテ
差支ナイト思ヒマス、此處ニ小川政務
次官ガ居ラレルガ、小川政務次官ノ御
答ハ全責任ヲ以テ此内閣ヲ代表シテノ
御答デアルト初メカラ諒解シテ宜シイ

○荒川委員長　植原君ニ申シマスガ、色々ナ方面ノ質疑ヲスルコトニナレバマダ澤山アラウト思ヒマスガ、本委員會ハ相當證券法外九件ノ委員會デアリマスカラ、成ベクソレニ直接關係ノ問題

セラレマスト、今マデ固定シテ居リマ
ス不動産金融ヲ滑カニシテ行クト云フ
コトニナリマス、併シ既ニ度々質問應
答ガアリマシタヤウニ、本年七月カラ
實施シマストシマシタ所デ、市制施行

トデアリマス
○小川政府委員 ソレハ土地ノ不動産ヲ抵當トシテ貸シテ居ル額ガ二十四五億アルト云フヤウナコトハ、ソレハ擱メマセウガ、昭和六年ノ七月カラ始メ

マシテ、直グ是ダケノモノニ抵當證券ヲ發行スルカドウカ、ソレハ分リマセヌ

ヌガ、ドウ云フヤウナ御趣旨デゴザイマセウカ

○植原悦二郎君 左様ナコトラ私ハ申シマセヌ、七月カラ是ガ直グ證券化サレルカドウカナント云フ、ソナ質問ヲシヤシマセヌ、少クモソレヲ狙ッテ此法律ヲ定メタモノデアル、此法律ヲ通過致シテ施行サレル範圍ニ於テ、少クモソレダケノ不動産ハ證券化スベキ性質ヲ有シテ居ルモノデアラウ、勿論是ガ七月カラ直ニ證券化スルナドト、ソナ無法ナ質問デナイコトダケヲ御了承願ヒマス、私ノ質問ハ極メテ明瞭デアリマスカラ、横道ニ入ラズニ「イエス」カ「ノー」ヲ御答ヘ下サレバ宜シイノデアリマス、サウ致シマス、此二十四五億ガ全部直ニ證券化スルモノトハ思ヒマセヌガ、一度此法律ガ實施サレルヤウニナリマスレバ、政府ガ之ヲ成ルベク有効ニ施行シタイガ爲ニ御出シニナッタト云フ前提ヲ以チマシテ考ヘマスル時ニ、此法律ガ實施サレル曉ニハ、相當不動産ガ證券化サレ、其爲メ可ナリ金融市場ニ於テ「インフレーション」ガ起ル、之ヲ認メテ居ルカドウカ、是モ「イエス」「ノー」ノ御答デ宜シイ

○植原悦二郎君 私ハ小川政府委員ハ、ソレ位ノコトハ經濟學者トシテ御存知デアルト思ッテ説明ヲ避ケタ譯デアリマスガ、此法律ハ元來約二十四五億ノ不動産ガ、地方銀行ナドニ縛リ付ケラレテ動カナイ、是ノ金融ヲ圖ラウト、斯ウ云フ御見込デアルト思ヒマス、サウスレバ二十四五億ノ不動産ガ、是ガ他ノ勸業ナリ、其他ノ銀行ヘ融通シテ、金ヲ借りル物權トシテ行使サレルノデアリマス、今マデサウ云フモノハナイ、二十四五億ノ、金融市場ニ直ニ融通サルベキ物權ガ起リマシテ、是ガ「インフレーション」ヲ起サナイト云フ理由ハナイノデアリマスカラ、サウ云フ理由デ私ノ質問ヲシテ居ルト云フコトヲ御了承ノ上「イエス」トカ、「ノー」トカ御答ガアレバ宜シイ

○小川政府委員 「インフレーション」ガ起ルト云フ趣旨ガ私ニ一寸分リマセヌ

○小川政府委員 私ハ植原君ノ御話ガ能ク分リマセヌ、「インフレーション」ガ起ルト云ヘバ、何カ兌換券ガ膨脹スルトカ云フヤウナコトガ考ヘラレルノダラウト思ヒマス、日本銀行ヘ借りニ行ッテ、サウシテ日本銀行ガ兌換券ヲドシテ出シテ來ルト、サウ云フヤウナ仕組ニナレバ、ソレハ「インフレーション」ト云ヘルカモ知レナイ、ケレドモ是ハサウ云フ建前デハアリマセヌ、

是ハ片方ニ於キマシテ、勸業銀行ナラ勸業銀行、農工銀行ナラ農工銀行ガ債券ヲ發行スル、民間ノ市場ノ金ガソコニ行クノデアリマス、ツマリ勸業銀行ノ庫ノ中ニ市場ノ金ガ行クノデアリマシテ、日本銀行カラ金ガ流レテ行クノデハアリマセヌ、ソレデアリマスカラ、市中ニ在ル所ノ銀行ノ金ガ、アツチヘ行ツタリ、コッチヘ行ツタリスルダケデアリマス、ソレガ爲ニ日本銀行ノ兌換券ガ二十億膨脹レルトカ何トカ云フ問題ニナリマセヌ、隨テ「インフレーション」ト云フ問題ニハ關係ナイト思ヒマス

○植原悦二郎君 小川政務次官御存知デアリマセウケレドモ、通貨ノ效力ハ唯高ノミデハアリマセヌ、是ガ如何ニ輾轉融通サレルカト云フコトニ依テ其效力ヲ發揮スルモノデアルコトハ御承知ノ通りデアアル、私ハ日本銀行ノ通貨膨脹ニナルトハ申シマセヌ、二十四五億ノ物權ガ新ニ金融サレル状態ニ置カレマスル時ニ、可ナリ金融市場ニ新シイ活力ヲ持ッテ來テ、金融ガ滑カニナル、幾多ノ資金ガ融通サレルヤウニナルト云フコトヲ、御認メニナラナイ譯ニハ行キマスマイ、私ハ通貨ガ膨脹スルトハ思ヒマセヌ、實際經濟上ノ問題ニ於テ、數年前ノ不景氣ト、昨年ノ年末アタリニ隨分制限外ノ通貨ヲ御發行ニナッテ彌縫ナスツタ、通貨ノ總額ニ於テハサ

ウ違ッテハ居リマスマイガ、併ナガラ田舎ニ行ッテモ不景氣ダ、金ガナイ、二進モ三進モ行カナイト言フノハ、金ガ偏在シテ居ッテ、其通貨ノ效力ヲ十分ニ發揮シナイ所ニアルコトハ、御否定ナサル譯ニハ行キマスマイ、然ラバ茲ニ新シイ法律ヲ設ケテ、二十四五億ノ物件ガ金融ノ力ヲ持ッテ市場ニ投出サレタ場合ニ於テ、是ガ貨幣ノ融通力ヲ激増シナイトハ申サレマイト思ヒマス

シナイトハ申サレマイト思ヒマス
ソレナラバ言葉ヲ換ヘテ、之ガ爲ニ縦シ、通貨ハ其總額ニ於テ膨脹サレズトモ、貨幣ノ輾轉スル所ノ融通力ハ、激増サレルト御考ヘニナルカドウカ、之ヲ伺ヒマス

○小川政府委員 サウ云フ御意見ガアルカラ私ハアタノ「インフレーション」ト云フノハ、ドウ云フ意味カト云フコトヲ御尋シタノデアアル、普通ニ「インフレーション」ト云フ言葉ヲ使ッテ居ルノハ、通貨ノ分量ガ殖エルト云フコトデアルト解釋シテ居ルト思フノデアリマスガ、併シ植原君ガ若シ通貨ノ分量ヲ増スノデナイト云フコトヲ御認メニナルナラバ、是ハ「インフレーション」ト云フ言葉ノ使ヒ方デアリマスガ、世間ハサウ云フ言葉ノ使ヒ方デヤナイト私ハ思ッテ居リマス、植原君ハ只今年末ニ於テ大變制限外發行ガ多クナッテ「インフレーション」ヲ起シタト言

ハレル、其事ハヤハリ數量が多クナッタ
ト云フヤウナコトデアリマスカラ「イ
ン・フレイション」ト云フ意味ヲ確メマ
セヌト、問答ガ混雜スル、斯ウ云フコ
トヲ申シテ居ルノデアリマス——ソレ
デ私ハ今ノヤウナ數量ヲ増スト云フコ
トニ關係シテハ、サウ云フコトハアリ
マセヌト答ヘテ居ルノデアリマス

○植原悦二郎君 私ハ數量ノ増ス點ハ
局限シマシタ、ソレヲ増サズトスルモ
二十四五億ノ物件ガ融通サレル所ノ資
料トナツテ、市場ニ出テ來ル時ニ、同ジ
通貨ノ高デアルト致シマシテモ、餘程
貨幣ノ融通力ヲ激増スルト云フコトヲ
御否定ナサル譯ニハ行キマスマイ

○小川政府委員 貨幣ノ輾轉スルコト
ハ頻繁ニナルデアリマセウ、ソレハ貨
幣ノ作用デアリマスカラ何モ不思議ハ
アリマセヌ

○植原悦二郎君 怪シカラヌ答辯デ
ス、貨幣ノ輾轉スルコトガ貨幣ノ作用
デアルナド、云フコトハ、誰デモ承知
シテ居ル、私ハ此法律ヲ以テ根據トシ
テ、此法律ニ依ツテ二十四五億ノ固定
シテ居ル所ノ不動産ガ市場ニ於テ金融
ノ目的物トナルコトガ出來ル——實際
ニ其通り全部ナルカナライカハ別問
題トシテ、ソレガナル以上ハ貨幣ノ融
通サレル力ハ可ナリ激増スルモノト見
ナケレバナリマスマイ、ソレヲ言葉ヲ

左右セラレルガ、貨幣ノ輾轉スルノハ
當リ前デアル、サウ云フコトヲ尋ネテ
居ルノデアリマセヌ、モウ少シ眞面
目ニチャント御答辯ナサイ

○小川政府委員 私ハアナタノ御尋ニ
眞面目ニ御答シテ居ル積リデアリマス
ガ——貨幣ノ數量ト云フモノハ關係ハ
ナイ、今マデノ固定シタモノガ流動ス
ル作用ヲ爲スノガ、今度ノ抵當證券ヲ
發行スル趣旨デアリマスカラシテ、今
マデノ金ガ割方多クナルト云フコトハ
アリマセウ、斯ウ申シテ居ルノデアリ
マス

○植原悦二郎君 其通り答ヘレバ宜イ
ノデス率直ニ御答辯ニナレバ何モ文句
ハナイ——サウスルト可ナリ貨幣ノ融
通力ガ増ス、其ノ結果ハドウナルカト
言ヘバ、今マデ固定シタ金ガ持タナイ
所ニ行クヤウニナル、融通サレ輾轉サ
レテ行クコトニナルト、隨テ經濟界ニ
活氣ヲ呈シマセウ、同ジ數量ノ貨幣デ
アリマシテモ、現在ノ如クニ偏在シテ、
或ハ農村漁村ニ行ケバ金ハ藥ニシタク
モ無イト云フノガ是ガ今日ノ狀態デア
ル、是ダケ物價ガ下ツテ丁度宜イト大藏
大臣ハ屢々言ツテ居ル、シテ見レバ——
私此法律ノ善イ惡イヲ言フノデハナ
イ、此法律カラ起ツテ來ル現象ヲ問フ
ノデス——隨テ、貨幣ノ融通力ハ必ズ
激増シマス、左様ニナリマスレバ、政

府ガ成ベク低物價主義ヲ執ル、緊縮政
策ヲ執ル消費節約ヲ獎勵スルト云フコ
ト、逆ノ結果ヲ生ズルコトハ、是ハ言
ヲ左右ニシナケレバ否定スルコトハ出
來ナイ、私共ノ考デハ、此案其モノヲ
善イトカ惡イト言フノデハナイ、是ハ
民政黨ノ今マデ御執リニナツテ居ッタ政
策ト根本的ニ反對スル法律案デアアル、
是ハ金融市場ヲ滑カニシ、固定シテ居
ル不動産ヲ證券化スルヤウニシテ、融
通資金ノ輾轉スルヤウニスル所謂金融
上ノ積極政策デアアル、是ハ從來民政黨
ガ御執リニナツテ居ッタ政策トハ全ク相
反スル根本的ノモノニナル、一面カラ
見レバ困ツテ居ル地方銀行ヲ救済スル
モノト見ル、又一面カラ見レバ隨分資
本家ニ便利ナ法案トモ見エル、之モ結
局現在ノ金融市場ガ梗塞サレテ、經濟
界ノ沈滞シテ居ル現状ヲ何トカシテ展
開シタイ、失業救済ト云フ名ヲ以テ非
募債政策ヲ棄テタト同ジヤウニ、此一
ツノ法律ヲ以テ、金融上ニ於テ、今マ
デ民政黨ガ御執リニナツテ居ッタ政策
ト、逆ノ政策ヲ執ルモノダト私ハ解釋
スルガ、ソレニ對シテ御意見ガアルカ
ドウカ、私共ハソレヲ固ク信ジテ居リ
マスルガ故ニ、私ハ前提ヲ置イテ御尋
スル次第デアリマス、若シ率直ニ御答
ヘ下サルナラバ、サウ云フ風ニナリマ
セウト云フ位ノ御答ガ、出ベキデアラ

ウト思ヒマス

○小川政府委員 植原君ノ御考ニハ私
不幸ニシテ賛成出來兼ネマス、之ヲ譬
ヘテ言フナラバ、血液ガ塊ツテ居ルノ
循環スルヤウニスルダケノコトデ、ソ
レガ何カ物價ノ上ニ影響ヲ及ボシテ、
エライドウモ、不景氣ガ景氣ニ直グ
ナルト云フ云フヤウナ御話デアリマス
ケレドモ、一體物價ト云フヤウナコト
ヲ議論セラル、ニハ、私ノ承知シテ居
ル所デハ、貨幣數量説カ何カニ依レバ
同ジ品物ガアルナラバ、品物ト通貨
トノ睨ミ合セデアルト、通貨ガ殖エ
バ物價ガ高クナルト云フヤウナ、サウ
云フ議論デ「インフレーション」ト云フ
言葉ガ謂ハレルノデアリマス、今金融
ガ滑カニナツタカラト云フテ、物價ガ
上ツテ何處ヘト云フヤウナ議論ニハナ
ルマイト思フノデアリマス、ドウ云フ
所デ植原君ガ民政黨ノ政策ニ逆行スル
ト言ハレルノデアリマセウカ、一寸考
ヘ方ガ私ニハ能ク解リマセヌガ、私共
ハサウ云フ風ニハ思ツテ居リマセヌ、是
ハ意見ノ相違カモ知レマセヌガ……

○植原悦二郎君 今ノ御答デ出テ居リ
マス、是ハ血液ノ循環ガ止ツテ居ルノ
ヲ付ケルノダト云フコトハ、是ハ明ニ
私ノ質問ニ御答ニナツテ居ル、何故血液
ノ循環ガ止マツタカ、御承知ノ通り此政
府ニナツテ緊縮シタ事業幾何ゾ、消費節

約ノ宣傳ニ依ッテ地方ヲ困ラセタ結果
幾何ゾ、通貨ノ「インフレーション」ノ
コトヲ御説キニナッテ彼此レ仰シヤル
ガ、通貨ト云フ日本銀行が出シタ通貨
ガ何處ニ在ッテモ、其通貨ヲ通貨ノ高ト
シテ數ヘルノハ私ハ間違ッテ居ルト思
フ、是ガ銀行ノ庫ノ中ニ入ッテ融通サレ
ナイヤウニ、楔ニ付ケラレテアレバ、
ソレハ通貨ハ通貨ニ違ヒナイノデアリ
マスケレドモ、通貨ノ效力ヲシテ居ラ
ナイノデアリマスガ、其通貨ノ效力ヲ
シテ居ラナイノガ銀行ノ庫カラ出テ來
テ運轉スレバ、ソレハヤハリ一種ノ「イ
ンフレーション」ニナル、唯日本銀行デ
十三億ノ通貨ガ出テ居ル、ソレガ皆活
用サレ、運轉スルモノダナド、御考ニ
ナルノハ、此實社會ヲ知ラザル甚ダシ
イ盲目的ノコトデアリマセウ、何處ニ
行ッタッテ、動イテ居ルモノト動カナイモ
ノトアル、偏在シテ動カナクナッテシマ
フ、今亞米利加デハ非常ニ金ヲ持ッテ居
ルケレドモ、是ガ偏在シタラ動カナク
ナルデセウ、アナタガ血液ノ循環ガ止ッ
テ居ルト言フ、是ハ消極政策、緊縮政
策、消費節約宣傳、無謀ナル金解禁、是
デヤッタ結果、國民ノ金融界ニ於ケル血
液ヲ硬化サシタ、其硬化ノ一部ヲ是デ
解キナサル積リデ本案ハ御出シニナッ
タモノト考ヘル、洵ニ満足ナ御答辯ヲ
承ッテ感謝シマス

○小川政府委員 一寸植原サンニ誤解
ガアルヤウデアリマスガ、何カ現内閣
ノ政策ニ依ッテ不動産ノ固定ガアッタヤ
ウニ言ハレマスケレドモ、不動産ガ固
定致シマシテ、金融ノ困難ヲ告ゲテ居
ルコトハ、決シテ現内閣ヲ以テ嚆矢ト
スルノデアリマセヌ、前ノ内閣、其
前ノ内閣、ズット不動産ノ金融ト云フモ
ノハ滑カデナイノデス、ソレヲ滑カニ
シヨウト云フノデアリマスカラ、現内
閣ノ政策ノ爲ニ血ガ固マッタ、サウ云フ
ヤウナコトヲ御考ニナルノハ少クトモ
不動産金融ニ關シテハアナタノ御觀察
ハ私ハ間違ッテ居ルト思フノデス、其間
違ッタモノヲ引付ケテ、何カ現内閣ノ政
策ガ不動産ヲ固定セシメタ、今度ハソ
レヲ流通セシメルノダ、サウ云フ風ニ
御考ニナルナラバ、私ハ植原君ハサウ
御考ニナッテモ、世間ノ人ハサウ云フ風
ニハ考ヘナイト思フノデス、私ハサウ
考ヘテ居リマセヌ

○荒川委員長 此抵當證券ノ法案ニ付
テ、前カラ説明殘リモ多少アッタカノ
ヤウニ思ヒマスガ、此際政府委員ヨリ、
序デニ其説明ヲ願ッテ此審議ノ局ヲ結
ンダ方ガ宜カラウト思ヒマス

○長島政府委員 實ハ十三條ノ「手形
ハ爾後效力ヲ有セス」ト云フコト、二
十六條ノ延滞利息ノコトニ付キマシテ
委員ノ方カラ御尋ガ出マシテ、私ノ答

辯ガ少し明瞭ヲ缺クヤウナコトニナリ
マシタカラ、モウ一度其點ダケヲ釋明
ヲ致シテ置キタイト存ジマス、十三條
ノ「手形ハ爾後效力ヲ有セス」ト云フノ
ハ、手形ガ全然無効ニナッテシマフ譯
デアルカ、ソレカラ後ニ裏書ヲ止メテ
シマフト云フ意味デアルカ、ト云フ御
問デアリマシテ、私ハ初メハ全然無効
ニナルノダト御答致シマシタガ、後ニ
ナッテ少し其答ニ付テ疑ヲ挾ムヤウニナ
リマシテ、答辯ガ曖昧ニナッテ居リマシ
タガ、其後段々研究致シマシタ結果ハ、
ヤハリ一番初メノ御答ノヤウニ、手形
ハ效力ヲ持ッテ居ラヌモノデアルト云
フ風ノ意味ニ解スルノガ宜シイト云フ
コトニ考付イタノデアリマス、其理由
ハ今申シタヤウニ、手形ノ裏書ヲ爾後
停止スルト云フヤウニ解シタノガ宜イ
ノデハナイカト考ヘマシタコトハ、其
手形ガ抵當證券ノ交付ヲ請求スル者ノ
裏書ニ依ッテ移轉セラレタル場合ノコ
トヲ考ヘタカラデアリマス、此場合ニ
於テ、若シ手形ハ無効ト致シマス、
抵當證券ノ交付ヲ受ケタ者ノ手形ノ前
者ニ對スル償還請求權ヲ失ハセルコト
ニナルカラ、ソレハ不公平デハナイカ
ト云フコトヲ考ヘタノデアリマシタ
ガ、其後段々考ヘテ見マス、手形ノ
裏書ト云フモノガサウ云フ風ニ轉シ
テ、所持人ノ手ニ入ッテ、ソレカラ抵當

證券ノ發行ノ交付ヲ求メルト云フコト
ハ非常ニ稀デアルシ、手形ノ償還期ト
云フモノハ非常ニ短カイノデアリマス
カラ、抵當證券ヲ實行スル前ニ手形ノ
償還請求權ガ無クナルト云フコトニナ
リマスカラ、結局サウ云フモノハ實益
ガナイ、手形ハヤハリ無効ニシテシマッ
テモ、抵當證券交付請求者ニハ餘リニ
損害ガナイカラ、其趣旨ニ於テ無効ニ
スル方ガ宜イノデハナイカト云フヤウ
ニ考ヘタノデアリマス、ソレカラモウ
一ツノ問題ハ、證券ノ成立前、證券發
行前ノ延滞利子ト云フモノガ一體證券
ノ權利執行ノ際ニ入ルカドウカト云フ
問題デアリマシテ、初メハヤハリ入ラ
ナイノデアアル、證券發行後ニ辨濟期ノ
來タ利息ダケガ問題ニナルノダト御答
ヲ致シマシタガ、其後此點ニ付テ稍疑
ヲ挾ムヤウナ御答ヲ致シテ居リマシタ
ガヤハリ是モ初メノ御答ガ宜カッタト云
フコトヲ發見致シタノデアリマス、結
局證券ハ證券ノ權利デアリマスカラ、
而シテ證券ニハ元本トソレカラ利率ノ
割合ヲ記載スルコトニナッテ居リマス、
隨テ其以前ニ於テ辨濟期ガ來タ、而シ
テ元本カラ離レタル獨立ノ利息債權ニ
ナッテ居ルモノハ、證券ニハ加算シテ居
ラスト云フ解釋ガ宜シイノデアリマス
カラ、ヤハリ是ハ證券發行當時ニ辨濟
期ノ來テ居ルモノハ入ラヌモノデア

ト云フ風ナ解釋ガ正シイト思ヒマシ
テ、一番初メノ解釋ヲ維持スル次第デ
アリマス、此二點ガ私ノ御答ガ稍々曖
昧ニナツテ居リマシタカラ、ソレヲ明
確ニ致シテ置ク次第デアリマス、ソレ
ダケデアリマス

○荒川委員長 是デ抵當證券法案外九
件ノ質疑ヲ終リマシタ、尙ホ後カラ付
託サレタ無盡業法案ガ残ツテ居リマス
ガ、是ハ手續等ノ細カイコトデアリマ
スカラ、今日ハ此程度ニシテ、皆サンノ
御意向モアリマスカラ、明日ハ本委員
會ヲ休ミマシテ、三月二日午前十時カ
ラ此抵當證券法案外九件ノ討議ヲシマ
ス、三月三日ノ午前十時ニ無盡業法ノ
質疑及討論ヲヤリタイト思ヒマス

○大崎委員 只今委員長カラ質問ハ全
部打切ルト言ハレマシタ、私共ハ賛成
デアリマスガ、討論ニ先ダツテ輕微ナ質
問ヲ許スコトハ先例ニナツテ居リマス
カラ、ソレヲ御承知願ヒマス

○荒川委員長 質問ハ是デ打切ルコト
ニナツテ居リマスガ、場合ニ依ツテ必要
ナル質問ハ許シマス、ソレデハ今日ハ
此程度デ散會致シマス

午後四時四分散會